

「令和5年度 札幌市総合防災訓練及び関連事業に係る設営・放送等業務」 仕様書

「令和5年度 札幌市総合防災訓練及び関連事業に係る設営・放送等業務」は以下のとおり行うこととする。

1 業務の概要

受託者の業務内容は、札幌市厚別区内で実施する「令和5年度 札幌市総合防災訓練（以下「訓練」という。）」に係る下記(1)の業務及び、当該訓練に関連して実施する防災普及啓発事業に係る下記(2)の業務を委託者及び訓練関係機関と連携・調整しながら行うものである。

(1) 「令和5年度 札幌市総合防災訓練」事業（担当：札幌市厚別区）

会場：ふれあい広場あつべつ、科学館公園、札幌学院大学及び札幌看護医療専門学校、厚別区民センター

訓練日時：令和5年9月6日（水）9時28分～11時45分（予定）

ア 訓練会場設営等業務

- ① 会場資器材の調達
- ② 会場全体図等の作成
- ③ 会場（ごみ拾い等の清掃及び放送設備を含む）の設営、撤収（撤収後のゴミ拾い等の清掃を含む）
- ④ 会場設営に係る設備保守（警備）、会場内及び周辺の整理・誘導、訓練参加（許可）外車両の入場規制

イ 放送等業務

- ① 進行シナリオ等の作成
- ② 訓練実施に必要な映像の事前撮影及び編集
- ③ 会場内放送（進行アナウンス等。事前のリハーサルを含む）

ウ 訓練実施に係る周知

- ① 会場周辺における事前周知看板のデザイン作成及び設置・撤去
- ② 会場周辺における訓練当日案内看板のデザイン作成及び設置・撤去

(2) 防災普及啓発事業（担当：札幌市危機管理局）

会場：札幌駅前通地下歩行空間 北大通交差点広場（西）

展示期間：令和5年9月8日（金）12時00分～同年9月10日（日）17時00分

ア 展示物の製作・管理等業務

- ① 防災普及啓発パネル製作
- ② 表題及び各種ブース看板パネルの製作
- ③ 展示物等の搬入
- ④ 展示物等の管理
- ⑤ 展示物等の搬出

2 履行期間

契約締結日から令和5年11月30日（木）

3 業務を行う日時

(1) 訓練会場設営等業務

ア 会場資器材の調達

下記エの会場設営業務に支障なく調達を終えること。

イ 会場全体図等の作成

会場全体図、駐車場・車両展示レイアウト図、必要資器材一覧表の初校を令和5年8月18日（金）までに作成し、委託者に提出し了承を得ること。その後、令和5年9月6日（水）まで訓練内容の変更等に応じて、修正等を行うこと。

ウ テント等の配置図及び看板等のデザイン

配置図及びデザイン案の初校を令和5年8月18日（金）までに委託者に提出すること。その後、令和5年9月6日（水）まで内容の変更等に応じて修正等を行い、その都度、委託者の了承を得てから作成すること。

エ 会場設営業務

機材搬入及び設営は令和5年9月4日（月）9時00分以降に行うこととし、撤去は令和5年9月7日（木）17時00分までに完了すること。なお、会場設営可能時間は9時00分から18時00分までを予定しているが、騒音等について会場施設利用者及び近隣住民へ配慮すること。

オ 会場設営に係る設備保守及び通行者の誘導（警備）

会場に設営された設置物及び放送設備等が、訓練当日に適切に使用できるよう維持管理するとともに、事故防止等注意喚起や迂回をするよう誘導する必要があるため、機材搬入日から会場撤収が完了するまでの間は警備員を別紙3のとおり配置すること。

カ 通行止め区間等の誘導

市道副都心団地3号線のうち南郷通から市道副都心団地2号線と交差する地点までは、通行止めとして一般車両の通り抜けは禁止とするが、北海道電力ネットワーク（株）札幌東支社、札幌学院大学新札幌キャンパス、青少年科学館及びD-パーキングを利用する者から規制区間に進入若しくは退出したい旨の申出があった場合は適切に誘導すること。

また、市道副都心団地4号線の路上にも車両を複数台停車させることから、隣接するビルへの車両の出入りや、当該路線を通行する車両があった場合等は、歩行者および訓練参加者との接触等事故が発生することの無いよう適切に誘導すること。

ク 訓練参加者及び来賓等の誘導・安全確保

警備員は訓練参加者及び来賓等が訓練会場内を往来する際の誘導を行うとともに、付近を通行する歩行者・自転車等と接触することの無いよう、安全に配慮し適切に誘導すること。

ケ 会場撤収業務

撤収は、令和5年9月6日（水）の訓練終了後から同年9月7日（木）17時00分までに完了すること。

(2) 放送等業務

ア 進行シナリオ等の作成

カメラマンタイムスケジュール、放送テントレイアウト図、中継カメラ配置図・モニター設置・ケーブル図、進行シナリオの初校を令和5年8月18日（金）までに作成すること。その後、令和5年9月6日（水）まで訓練内容の変更等に応じて修正等を行うこと。

イ 事前撮影及び編集業務

訓練当日に使用する映像の編集等を行う。事前撮影後は、撮影した映像について、委託者と随時調整を行ったうえで、令和5年9月5日（火）までに編集等を完了させ、委託者に提出し了承を得ること。

ウ 会場内放送業務

訓練当日は、進行シナリオ及び委託者の指示に沿って放送すること。また、令和5年9月5日（火）午後にリハーサルを行うこと。なお、会場設営等については、リハーサルの支障とならないよう配慮すること。

エ 訓練当日の動画撮影

訓練当日に撮影したデータは全て納品すること。

(3) 訓練実施に係る周知

ア 会場周辺における事前周知看板のデザイン作成及び設置

看板のデザインについては委託者と十分協議のうえ、作成し、必要箇所に設置すること。なお、デザイン案の初校を令和5年8月18日（金）までに委託者に提出すること。

(4) 展示物の製作・管理等業務

ア 防災普及啓発パネル製作

委託者が別途送付するデータを活用し、展示用パネルを製作する。

イ 表題及び各種ブース看板パネルの製作

委託者が別途送付するデータを活用し、表題及び各種ブース看板を製作する。

ウ 展示物等の搬入

展示物等は、委託者と調整のうえ、令和5年9月8日（金）9時00分以降に展示会場への搬入を行うこと。

エ 展示物等の管理業務

下記時間帯について、展示物等の管理を行うこと。

- ① 令和5年9月8日（金）：20時00分から25時00分まで
- ② 令和5年9月9日（土）：5時45分から10時00分まで
- ③ 令和5年9月9日（土）：20時00分から25時00分まで
- ④ 令和5年9月10日（日）：5時45分から10時00分まで

オ 展示物等の搬出

展示物等は、令和5年9月10日（日）19時00分までに搬出・保管し、同年9月11日（月）以降、指定された場所へ搬入すること。

4 業務内容の詳細

(1) 訓練会場設営等業務

ア 訓練資料

別紙1：訓練項目別参加団体一覧、別紙2：会場図、別紙3：警備配置図、別紙4：実施計画概要、別紙5：訓練要領、別紙6-1～6-7：必要資器材一覧表のとおり

イ 会場全体図等の作成

別紙資料を基に委託者と調整・協議し、下記資料を作成すること。

- ① 会場全体図

資器材の配置箇所及び各訓練項目で使用する範囲、車両導線等を示した案内用の会場全体図を作成すること。

② 駐車場・車両展示等レイアウト図

委託者が用意する会場図（別紙2）を基に、過不足を調整した展示物・車両展示等の配置箇所を示したレイアウト図を作成すること。

③ 必要資器材一覧表

訓練の進行や安全面等を考慮し、委託者が用意した必要資器材一覧表（別紙6-1）の過不足を調整した一覧表を作成すること。

ウ 会場の設営

上記イで作成した会場全体図等に基づき受託者にて調達した物品及び委託者が指定する場所から物品（委託者にて調達）を搬送し会場の設営を行うこと。設営にあたっては、会場内の舗装等を破損させないように、地盤養生等の対策を行うこと。特に科学館公園内は4 tを超える加重を想定していないことから、重量物を用いる工作物の設置箇所は保護するよう十分な対策を行うとともに、破損した場合には速やかに委託者に報告のうえ危険個所の表示を行うなど応急対応のうえ後日原状回復を行うこと。

また、会場範囲内についてゴミ拾い等を行い訓練環境を整備するとともに、観覧席及び来賓席を設置する箇所については清掃を行うこと。

エ テント等設置物の対策

テント等の設置においては、強風時の転倒防止対策、雨対策等を行うこと。

オ 設營業務期間内の細部調整

設営及び撤収期間内について、作業車両を常に用意しておき、設置物の移動等に対応すること。

カ 訓練会場全体の総合的な調整業務

委託者及び委託者が指名した者の指示に従い、受託者が設置する機材等と、委託者や他の訓練参加機関等が設置する機材等との位置関係等の総合的な調整を行うこと。また、機材の設置開始から訓練機材の撤収までの期間、訓練会場の管理を行うこと。

キ 撤収業務

資器材の撤収及び会場の原状復帰を実施し、作成した看板等については市内指定場所へ搬出・搬入すること。また上記ウのうち委託者が指定する場所から搬送した物品については、所定の場所に返却すること。なお、訓練で発生したゴミ、残置物等はすべて収集し、廃棄処理等を実施すること。

(2) 放送等業務

ア 会場内放送等業務内容

別紙7-1～7-3：会場内放送業務内容のとおり

※受託者は下記イに示す進行シナリオに応じた最適な撮影位置等を委託者に提案すること

イ 進行シナリオ等の作成

実施計画概要（別紙4）や訓練要領（別紙5）、令和2年度進行シナリオ（別紙8）等を基に委託者と調整・協議し、下記資料を作成すること。また、シナリオの初校を令和5年8月18日（金）までに作成し、委託者に提出すること。

① 令和5年度札幌市総合防災訓練の当日用の進行シナリオ

訓練開始前から訓練終了まで（9時28分～11時45分を予定）の映像割り当て、司会者のアナウンス原稿をまとめたシナリオ

- ② カメラマンタイムスケジュール
カメラの撮影タイムスケジュール
- ③ 放送テントレイアウト図
放送テント内のマイク、机、椅子などの配置図
- ④ 中継カメラ配置図・モニター設置・ケーブル図
中継カメラの撮影配置、モニター設置場所、ケーブル配置を示した図

ウ 放送リハーサル

訓練前日の令和5年9月5日（火）午後に中継・進行管理等についてのリハーサルを委託者、訓練参加機関や委託者が委託した他業者等と協力して行うこと。この時、受託者は当日のカメラワークの確認や大型モニターへの映像の転送に問題がないか等撮影資機材の事前点検を必ず行うこと。

エ 事前訓練の撮影及び編集

令和5年8月中（予定）のいずれか1日に訓練中に放映する映像（医療機関に搬送する様子／5分以内）の撮影を予定しているため、それらを撮影するとともに、同年9月6日（水）の訓練当日に何らかのトラブルがあった際に大型ビジョンに表示する蓋画（静止画）を準備し、これら映像及び静止画を同年9月5日（火）までに編集・作成のうえ委託者に提出し了承を得ること。

これらの録画したデータは編集し委託者へ提出すること。その際、通行人など明らかに訓練参加者以外と判る人物の顔及び車両のナンバープレートにはそれぞれモザイク等処理をすること。

オ 訓練当日の撮影

訓練当日の様子を撮影し大型モニターに表示させること。また、進行状況に応じて適時へリコプターからの映像を大型モニターに表示させること。

録画したデータは委託者へ提出すること。

(3) 訓練実施に係る周知

- ア 会場周辺における事前周知看板及び訓練当日案内看板の作成及び設置・撤去
作成する看板のデザインについては委託者と十分協議し、事前に委託者に了解をもらい、指定する箇所に看板を設置し、訓練終了後は速やかに撤去すること。
設置にあたっては、事故を誘発したり通行の妨げとならないよう細心の注意を払うこと。

(4) 展示物の製作・管理等業務

- ア 令和5年9月8日（金）から令和5年9月10日（日）までの防災展示

① 展示準備

i 防災普及啓発パネル製作

委託者がデータで提供する写真を活用し、以下のパネルを製作する。

サイズ	仕様	数量
A1（横）	スチレンパネル7mm厚 マットラミネート	3枚

※ パネル1枚に吊元2点付けること。

※ 写真に人が映っている場合は、個人が識別できないよう処理すること。

ii 表題及び看板パネルの製作

委託者がデータで提供するデザインを活用し、以下の表題・看板パネルを製作する。

用途	仕様	数量
表題パネル	スチレンパネル7mm厚(1800mm×900mm)	1枚
看板パネル	スチレンパネル5mm厚(450mm×450mm)	4枚

② 展示物等の搬入

i 展示物等の搬入(表題・看板パネル表示台の設置を含む。)

展示物等は、指定した日時までに会場へ搬入すること。(物品は、各種防災マップ、防災普及啓発品、その他)

なお、搬入については札幌駅前通まちづくり株式会社と十分調整を行うこと。

ii 展示物等の管理

下記時間帯について、1名以上の管理員を配置すること。

- ・令和5年9月8日(金): 20時00分から25時00分まで
- ・令和5年9月9日(土): 5時45分から10時00分まで
- ・令和5年9月9日(土): 20時00分から25時00分まで
- ・令和5年9月10日(日): 5時45分から10時00分まで

③ 展示物等の搬出

i 展示物等の搬出(表題・看板パネル表示台の撤去を含む。)

展示物等は、令和5年9月10日(日)19時00分までに搬出・保管し、同年9月11日(月)以降、指定された場所へ搬入すること。

イ 会場内における使用物品

下表の物品を受託者にて準備すること。

物品名等	数量
表題・看板パネル表示台(サインスタンド) ※ 表題及び看板パネルを設置するもの	5個
長机(1.8m×0.45m)	11本
DVD放映可能なもの(DVDプレイヤー、PC等) ※ 会場の付属モニター(RGB15ピン、音声端子)に接続可能なもの	1台
白布 ※ 長机上の物品等を覆うことができる大きさとする。	20枚
パイプ椅子	4脚

ウ 会場使用料

展示会場の使用料は委託者が負担する。

5 その他

- (1) 受託者は、令和5年9月6日(水)の「令和5年度 札幌市総合防災訓練」及び、令和5年9月8日(金)から同年9月10日(日)まで札幌駅前通地下歩行空間で実施する防災展示の実施にあたって用務計画書を令和5年8月18日(金)までに、厚別区と危機管理局それぞれに提出すること。なお、計画書の提出前後に関わらず、業務遂行上の詳細な内容について厚別区と危機管理局それぞれと十分な打ち合わせを行い、その都度承認を受けること。

- (2) 本業務で作成した印刷物等のデータは、原則電子媒体（CD-RもしくはDVD-R）に記録し、厚別区役所に納品すること。撮影した訓練映像については、別途データ形式でも納品すること。
- (3) 本業務に係る著作権、印刷物、作成物及び提出された原稿・データに係る権利は、委託者である札幌市に帰属するものとする。制作物及びコンテンツに使用する写真、文字等が受託者以外の者の著作物（以下「原著作物」という。）である場合には、受託者が原著作物の著作者に説明し、承諾を得るなど必要な手続を取った上で本業務に当たることとし、原著作物の著作者等と委託者との間に著作権法等上の紛争が生じさせないこと。
- (4) 本業務の履行においては、委託者である札幌市の環境マネジメントシステムに準じ、環境負荷の低減に努めること。
- (5) 会場の熟知
会場全体図や進行シナリオ等の作成をはじめ、当該業務全般については、会場の広さや危険箇所など会場を熟知する必要があることから、下見等を重ね、専門的な知識を持って、業務を実施すること。
- (6) 荒天や災害等により防災訓練や防災展示が中止、若しくは雨天等により防災訓練が区民センター会場のみでの縮小開催となった場合には、中止決定時間等により、委託者、受託者協議のうえ、委託料を減ずるものとする。
なお、その際には、中止決定時の設置業務の進捗状況等により、受託者が実際に当該業務の履行に要した費用等を参考に協議を行うこととする。
- (7) 訓練内容の変更等により、必要資器材が増減した場合は、委託者と協議のうえ、必要資器材を調達すること。
- (8) 設営業務において、訓練関係機関への申請及び使用料が生じた場合は、受託者が負担することとする。
- (9) この業務について、疑義があるとき、またはこの仕様に定めのない事項は、委託者と協議のうえ、業務を行うこと。
- (10) 受託者は、この契約による業務を処理するに当たって個人情報等を取り扱う際には、別記「個人情報の取扱いに関する特記事項」を守らなければならない。
- (11) 業務完了時は、写真等を用いて業務の詳細がわかる業務完了報告書を作成し、委託者が指定する期日までに、厚別区と危機管理局それぞれに提出すること。

別記

個人情報の取扱いに関する特記事項

(個人情報の保護に関する法令等の遵守)

第1条 受託者は、「個人情報の保護に関する法律」(平成15年法律第57号。以下「個人情報保護法」という。)、個人情報保護委員会が定める「個人情報の保護に関する法律についての事務対応ガイド(行政機関等向け)」(以下「事務対応ガイド」という。)、**「札幌市情報セキュリティポリシー」**等に基づき、この個人情報の取扱いに関する特記事項(以下「特記事項」という。)を遵守しなければならない。

(管理体制の整備)

第2条 受託者は、個人情報(個人情報保護法第2条第1項に規定する個人情報をいう。以下同じ。)の安全管理について、内部における管理体制を構築し、その体制を維持しなければならない。

(管理責任者及び従業者)

- 第3条 受託者は、個人情報の取扱いに係る保護管理者及び従業者を定め、書面(当該書面に記載すべき事項を記録した電磁的記録を含む。以下同じ。)により委託者に報告しなければならない。
- 2 受託者は、個人情報の取扱いに係る保護管理者及び従業者を変更する場合の手続を定めなければならない。
 - 3 受託者は、保護管理者を変更する場合は、事前に書面により委託者に申請し、その承認を得なければならない。
 - 4 受託者は、従業者を変更する場合は、事前に書面により委託者に報告しなければならない。
 - 5 保護管理者は、特記事項に定める事項を適切に実施するよう従業者を監督しなければならない。
 - 6 従業者は、保護管理者の指示に従い、特記事項に定める事項を遵守しなければならない。

(取扱区域の特定)

- 第4条 受託者は、個人情報を取り扱う場所(以下「取扱区域」という。)を定め、業務の着手前に書面により委託者に報告しなければならない。
- 2 受託者は、取扱区域を変更する場合は、事前に書面により委託者に申請し、その承認を得なければならない。
 - 3 受託者は、委託者が指定した場所へ持ち出す場合を除き、個人情報を定められた場所から持ち出してはならない。

(教育の実施)

- 第5条 受託者は、個人情報の保護、情報セキュリティに対する意識の向上、特記事項における従業者が遵守すべき事項その他本委託等業務の適切な履行に必要な教育及び研修を、従業者全員に対して実施しなければならない。
- 2 受託者は、前項の教育及び研修を実施するに当たり、実施計画を策定し、実施体制を確立しなければならない。

(守秘義務)

第6条 受託者は、本委託業務の履行により直接又は間接に知り得た個人情報を第三者に漏らしてはならない。

- 2 受託者は、その使用する者がこの契約による業務を処理するに当たって知り得た個人情報を他に漏らさないようにしなければならない。
- 3 前2項の規定は、この契約が終了し、又は解除された後においても、また同様とする。
- 4 受託者は、本委託等業務に関わる保護管理者及び従業者に対して、秘密保持に関する誓約書を提出させなければならない。

(再委託)

第7条 受託者は、やむを得ない理由がある場合を除き、本委託等業務の一部を第三者へ委託（以下「再委託」という。）してはならない。

- 2 受託者が再委託する場合には、あらかじめ委託者に申請し、委託者から書面により承諾を得なければならない。
- 3 受託者は、本委託等業務のうち、個人情報を取り扱う業務の再委託を申請する場合には、委託者に対して次の事項を明確に記載した書面を提出しなければならない。
 - (1) 再委託先の名称
 - (2) 再委託する理由
 - (3) 再委託して処理する内容
 - (4) 再委託先において取り扱う情報
 - (5) 再委託先における安全性及び信頼性を確保する対策
 - (6) 再委託先に対する管理及び監督の方法
- 4 受託者は、前項の申請に係る書面を委託者に対して提出する場合には、再委託者が委託者指定様式（本契約締結前に受託者が必要事項を記載して委託者に提出した様式をいう。）に必要事項を記載した書類を添付するものとする。
- 5 委託者が第2項の規定による申請に承諾した場合には、受託者は、再委託先に対して本契約に基づく一切の義務を遵守させるとともに、委託者に対して再委託先の全ての行為及びその結果について責任を負うものとする。
- 6 委託者が第2項から第4項までの規定により、受託者に対して個人情報を取り扱う業務の再委託を承諾した場合には、受託者は、再委託先との契約において、再委託先に対する管理及び監督の方法及び方法について具体的に規定しなければならない。
- 7 前項に規定する場合において、受託者は、再委託先の履行状況を管理・監督するとともに、委託者の求めに応じて、その管理・監督の状況を適宜報告しなければならない。

(複写、複製の禁止)

第8条 受託者は、本委託等業務を処理するに当たって、委託者から提供された個人情報が記録された資料等を、委託者の許諾を得ることなく複写し、又は複製してはならない。

(派遣労働者等の利用時の措置)

第9条 受託者は、本委託等業務を派遣労働者、契約社員その他の正社員以外の労働者に行わせる場合は、正社員以外の労働者に本契約に基づく一切の義務を遵守させなければならない。

2 受託者は、委託者に対して、正社員以外の労働者の全ての行為及びその結果について責任を負うものとする。

(個人情報の管理)

第10条 受託者は、本委託等業務において利用する個人情報を保持している間は、事務対応ガイドに定める各種の安全管理措置を遵守するとともに、次の各号の定めるところにより、当該個人情報の管理を行わなければならない。

- (1) 個人情報を取り扱う事務、個人情報の範囲及び同事務に従事する従業者を明確化し、取扱規程等を策定すること。
- (2) 組織体制の整備、取扱規程等に基づく運用、取扱状況を確認する手段の整備、情報漏えい等事案に対応する体制の整備、取扱状況の把握及び安全管理措置の見直しを行うこと。
- (3) 従業者の監督・教育を行うこと。
- (4) 個人情報を取り扱う区域の管理、機器及び電子媒体等の盗難等の防止、電子媒体等の取扱いにおける漏えい等の防止、個人情報の削除並びに機器及び電子媒体等の廃棄を行うこと。
- (5) アクセス制御、アクセス者の識別と認証、外部からの不正アクセス等の防止及び情報漏えい等の防止を行うこと。

(提供された個人情報の目的外利用及び第三者への提供の禁止)

第11条 受託者は、本委託等業務において利用する個人情報について、本委託等業務以外の目的で利用し、又は第三者へ提供してはならない。

(受渡し)

第12条 受託者は、委託者と受託者との間の個人情報の受渡しを行う場合には、委託者が指定した手段、日時及び場所で行うものとする。この場合において、委託者は、受託者に対して個人情報の預り証の提出を求め、又は委託者が指定する方法による受渡し確認を行うものとする。

(個人情報の返還、消去又は廃棄)

第13条 受託者は、本委託等業務の終了時に、本委託等業務において利用する個人情報について、委託者の指定した方法により、返還、消去又は廃棄しなければならない。

2 受託者は、本委託等業務において利用する個人情報を消去又は廃棄する場合は、事前に消去又は廃棄すべき個人情報の項目、媒体名、数量、消去又は廃棄の方法及び処理予定日を書面により委託者に申請し、その承諾を得なければならない。

3 受託者は、個人情報の消去又は廃棄に際し委託者から立会いを求められた場合は、これに応じなければならない。

- 4 受託者は、前3項の規定により個人情報廃棄する場合には、当該個人情報が記録された電磁的記録媒体の物理的な破壊その他当該個人情報を判読不可能とするのに必要な措置を講じなければならない。
- 5 受託者は、個人情報を消去し、又は廃棄した場合には、委託者に対してその日時、担当者名及び消去又は廃棄の内容を記録した書面で報告しなければならない。

(定期報告及び緊急時報告)

第14条 受託者は、委託者から、個人情報の取扱いの状況について報告を求められた場合は、直ちに報告しなければならない。

- 2 受託者は、個人情報の取扱状況に関する定期報告及び緊急時報告の手順を定めなければならない。

(監査及び調査)

第15条 委託者は、本委託等業務に係る個人情報の取扱いについて、本契約の規定に基づき必要な措置が講じられているかどうか検証及び確認するため、受託者及び再委託者に対して、実地の監査又は調査を行うことができる。

- 2 委託者は、前項の目的を達するため、受託者に対して必要な情報を求め、又は本委託等業務の処理に関して必要な指示をすることができる。

(事故時の対応)

第16条 受託者は、本委託等業務に関し個人情報の漏えい等の事故（個人情報保護法違反又はそのおそれのある事案を含む。）が発生した場合は、その事故の発生に係る帰責の有無にかかわらず、直ちに委託者に対して、当該事故に関わる個人情報の内容、件数、事故の発生場所、発生状況等を書面により報告し、委託者の指示に従わなければならない。

- 2 受託者は、個人情報の漏えい等の事故が発生した場合に備え、委託者その他の関係者との連絡、証拠保全、被害拡大の防止、復旧、再発防止の措置を迅速かつ適切に実施するために、緊急時対応計画を定めなければならない。
- 3 委託者は、本委託等業務に関し個人情報の漏えい等の事故が発生した場合は、必要に応じて当該事故に関する情報を公表することができる。

(契約解除)

第17条 委託者は、受託者が特記事項に定める業務を履行しない場合は、特記事項に関連する委託等業務の全部又は一部を解除することができる。

- 2 受託者は、前項の規定による契約の解除により損害を受けた場合においても、委託者に対して、その損害の賠償を請求することはできないものとする。

(損害賠償)

第18条 受託者の責めに帰すべき事由により、特記事項に定める義務を履行しないことによって委託者に対する損害を発生させた場合は、受託者は、委託者に対して、その損害を賠償しなければならない。

(注) 委託事務の実態に即して、適宜必要な事項を追加し、又は不要な事項を省略することとする。

○ 会場図

別紙2

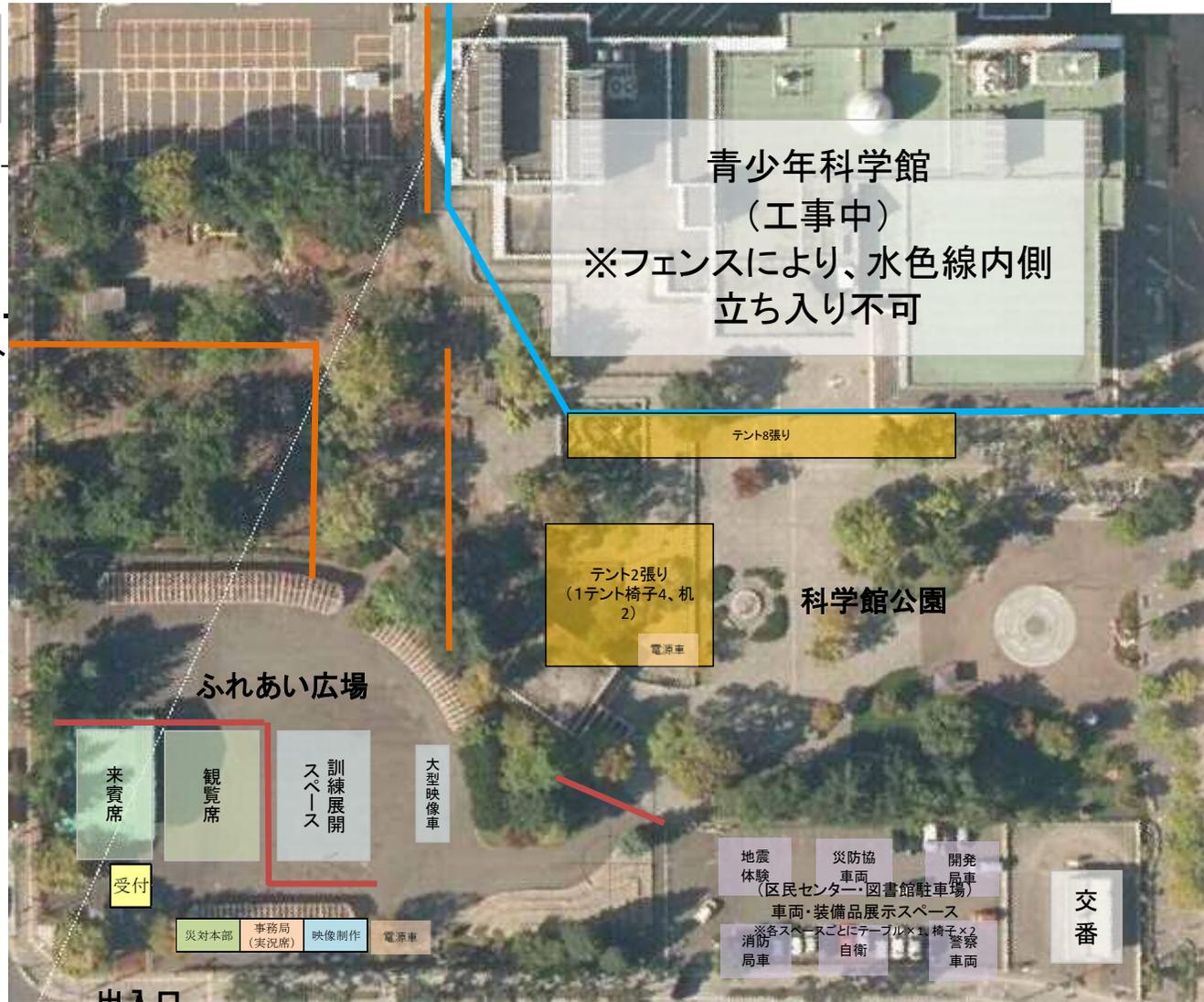
メイン会場図

- 三角コーン+パ
- 三角コーンのみ

訓練関係者・
一般通行人
出入口

訓練関係者
出入口

訓練関係者・
一般通行人
出入口



出入口

↑訓練関係車両出入口
※10:30以降、三角コーン等で通路塞ぐ

○ 令和5年度札幌市総合防災訓練 警備配置図

別紙3

・訓練当日の令和5年9月6日(水)の7時から13時までは、①～⑧の箇所に警備を配置し、事故等のないよう保守管理すること。

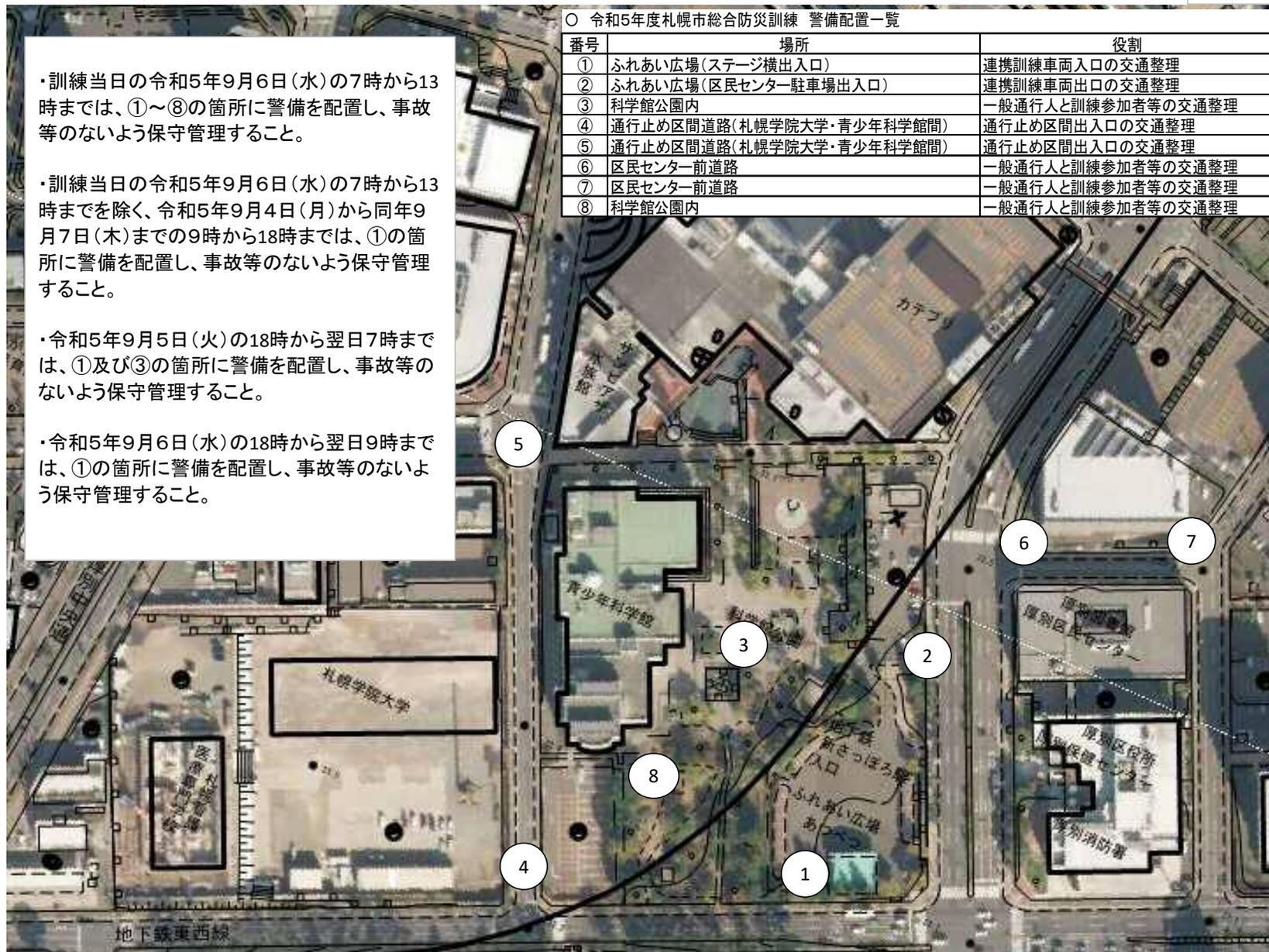
・訓練当日の令和5年9月6日(水)の7時から13時までを除く、令和5年9月4日(月)から同年9月7日(木)までの9時から18時までは、①の箇所に警備を配置し、事故等のないよう保守管理すること。

・令和5年9月5日(火)の18時から翌日7時までは、①及び③の箇所に警備を配置し、事故等のないよう保守管理すること。

・令和5年9月6日(水)の18時から翌日9時までには、①の箇所に警備を配置し、事故等のないよう保守管理すること。

○ 令和5年度札幌市総合防災訓練 警備配置一覧

番号	場所	役割
①	ふれあい広場(ステージ横出入口)	連携訓練車両入口の交通整理
②	ふれあい広場(区民センター駐車場出入口)	連携訓練車両出口の交通整理
③	科学館公園内	一般通行人と訓練参加者等の交通整理
④	通行止め区間道路(札幌学院大学・青少年科学館間)	通行止め区間出入口の交通整理
⑤	通行止め区間道路(札幌学院大学・青少年科学館間)	通行止め区間出入口の交通整理
⑥	区民センター前道路	一般通行人と訓練参加者等の交通整理
⑦	区民センター前道路	一般通行人と訓練参加者等の交通整理
⑧	科学館公園内	一般通行人と訓練参加者等の交通整理



1 地域連携救出消火訓練（調整担当：厚別消防署）																									
実施時間（09：35～09：40）																									
9:30	9:35	9:40	9:45	9:50	9:55	10:00	10:05	10:10	10:15	10:20	10:25	10:30	10:35	10:40	10:45	10:50	10:55	11:00	11:05	11:10	11:15	11:20	11:25	11:30	
訓練会場																									
ふれあい広場																									
訓練想定																									
石狩中部を震源とした札幌直下型地震が発生、厚別区では震度7を観測し建物の倒壊や火災が随所で発生した。																									
訓練概要																									
地域住民、学生、事業所が連携して救出救護・消火を行う。																									
(1) 要救助者救出訓練																									
(2) 応急手当訓練（三角巾）																									
(3) 初期消火訓練																									
(4) 負傷者搬送訓練																									
参加団体及び人員（8団体 計13名）																									
(1) 厚別区連合町内会 2名																									
(2) 札幌医療看護専門学校 2名																									
(3) 札幌学院大学 2名																									
(4) 副都心開発公社 2名																									
(5) 札幌市交通局 1名																									
(6) 北海道旅客鉄道株式会社 1名																									
(7) 厚別郵便局 2名																									
(8) 一般社団法人北海道ハイヤー協会 1名																									
参加車両等（計1台）																									
一般社団法人北海道ハイヤー協会（1台）																									
必要資機材																									
(1) 座屈家屋 1棟（厚別区役所で用意）																									
(2) 更衣ロッカー 1棟（厚別区役所で用意）																									
(3) 訓練用ダミー 2体（配分予算で購入）																									
(4) 自主防災資機材セット 1個（厚別区役所で用意）																									
(5) ジャッキ 1基（厚別区役所で用意）																									
(6) 金テコ 1本（厚別区役所で用意）																									
(7) 廃材等 角材数本（厚別区役所で用意）																									
(8) 消火体験装置 3基（厚別消防署で用意）																									
(9) 消火器 6本（厚別消防署で用意）																									
(10) 三角巾 2枚（受託者で調達）																									

訓練行動

- 09:35 住民、学生、事業所が連携して自主防災資機材セットを展開し、ジャッキや金テコを取り出す。厚別消防団員の指導の下、座屈家屋と更衣ロッカーの下敷きの要救助者（ダミー人形）を救出する。
- 09:37 札幌医療看護専門学校が負傷者の処置を行う。
- 09:38 消火体験装置に向かって、住民、学生、事業所が消火器で初期消火を行う。
- 09:39 一般社団法人北海道ハイヤー協会のタクシーが会場に入り、負傷者を乗せてI街区の病院へ搬送

会場図



備考

2 被害状況把握・情報収集伝達訓練（調整担当：厚別消防署）

実施時間（9：40～9：45）

9:30 9:35 9:40 9:45 9:50 9:55 10:00 10:05 10:10 10:15 10:20 10:25 10:30 10:35 10:40 10:45 10:50 10:55 11:00 11:05 11:10 11:15 11:20 11:25 11:30

訓練会場

ふれあい広場

訓練想定

石狩中部を震源とした札幌直下型地震が発生、厚別区では震度7を観測し建物の倒壊や火災が随所で発生した。

訓練概要

上空及び陸上から被災地区の被害状況把握と、住民等から収集した情報を集約し、現地合同調整所へ伝達する訓練

参加団体及び人員（9団体 計18名）

- | | |
|---------------------|----|
| (1) 小樽海上保安部 | 2名 |
| (2) 陸上自衛隊第11旅団 | 2名 |
| (3) 航空自衛隊 | 2名 |
| (4) 北海道警察本部 | 2名 |
| (5) 一般社団法人北海道ハイヤー協会 | 1名 |
| (6) 中央消防署 | 2名 |
| (7) 南消防署 | 3名 |
| (8) 札幌学院大学 | 2名 |
| (9) 札幌医療看護専門学校 | 2名 |

参加車両等（計9台）

- | | |
|---------------------|----|
| (1) 小樽海上保安部ヘリコプター | 1機 |
| (2) 航空自衛隊ヘリコプター | 1機 |
| (3) 北海道警察本部バイク | 2台 |
| (4) 陸上自衛隊第11旅団バイク | 2台 |
| (5) 一般社団法人北海道ハイヤー協会 | 1台 |
| (6) 札幌市中央消防署小型救助車 | 1台 |
| (7) 札幌市南消防署ドローン | 1機 |

必要資機材

トランシーバー 5台(厚別消防署で用意)

訓練行動

- 09:40 小樽海上保安部と自衛隊ヘリコプターが、上空から被害状況の確認を行う。自衛隊ヘリコプターから現地合同調整所（自衛隊の地上通信員）へ無線で状況報告を行う。使用無線は「自衛隊が運用している無線」を使用する。地上通信員は現地合同調整所に状況を報告する。（無線内容を会場に流す）
- 09:41 消防小型救助車、陸上自衛隊及び北海道警察本部の各バイク部隊、タクシー車両がふれあい広場に到着。消防小型救助車は札幌学院大学の学生から、陸上自衛隊は札幌医療看護専門学校の学生から、北海道警察本部はタクシーの運転手から被害状況等の情報収集を行う。
- 09:42 札幌市南消防署のドローンがふれあい広場上空を飛行し、札幌学院大学側の倒木の状況や負傷者状況を大型モニターに映像伝送を行う。さらに、札幌学院大学側の避難誘導をスピーカーから流す。
- 09:43 消防小型救助車、陸上自衛隊及び北海道警察本部の各バイク部隊がふれあい広場の中央で情報共有を行い、集約した情報を消防が現地合同調整所に無線で状況を報告する。（無線機内容を会場に流す）
- 09:44 消防小型救助車、陸上自衛隊及び北海道警察本部の各バイク部隊が科学館広場の現地合同調整所へ行き口頭で状況報告を行い、札幌学院大学側に向かう。

会場図



備考

3 現地合同調整所訓練（調整担当：厚別消防署）

実施時間（9：45～10：30）

9:30 9:35 9:40 9:45 9:50 9:55 10:00 10:05 10:10 10:15 10:20 10:25 10:30 10:35 10:40 10:45 10:50 10:55 11:00 11:05 11:10 11:15 11:20 11:25 11:30

訓練会場

科学館公園

訓練想定

石狩中部を震源とした札幌直下型地震が発生、厚別区では震度7を観測し建物の倒壊や火災が随所で発生した。

訓練概要

消防、自衛隊、警察及び関係機関が安全かつ迅速に活動するために、現地合同調整所を設け、各種被害状況を共有し、活動範囲、活動部隊等の調整を図る訓練

参加団体及び人員（8団体 計18名）

- | | |
|----------------------|----|
| (1) 厚別消防署 | 4名 |
| (2) 陸上自衛隊第11旅団 | 2名 |
| (3) 北海道警察本部 | 2名 |
| (4) 北海道札幌方面厚別警察署 | 2名 |
| (5) 札幌医科大学付属病院（DMAT） | 1名 |
| (6) 南消防署 | 3名 |
| (7) 江別市消防本部 | 2名 |
| (8) 北広島市消防本部 | 2名 |

参加車両等（計3台）

- | | |
|--------------------|----|
| (1) 厚別消防署 指揮車 | 1台 |
| (2) 自衛隊救助部隊 ジープ | 1台 |
| (3) 北海道警察 災害用バン型車両 | 1台 |

必要資機材

- | | |
|----------------|-----------------|
| (1) 旗「現地合同調整所」 | 1枚（厚別消防署で用意） |
| (2) 旗用ポール・杭 | 1セット（厚別消防署で用意） |
| (3) 訓練用図面 | 1枚（厚別区役所で印刷） |
| (4) 指揮テーブル | 2台（厚別指揮隊の積載資機材） |

訓練行動

- 09:45 「被害状況把握・情報収集伝達訓練」にて収集した情報について、各機関で情報共有を行う。
- 09:47 自衛隊と災害防止協力会が現着し、倒木の下敷きになっている負傷者を確認後、現地合同調整所に無線報告を行う。
- 09:48 各機関が集まり、被害状況の確認、活動エリアを協議する。
札幌学院大学では多数の負傷者が発生しており、付近路上では倒木の下敷きとなっ

た負傷者がいる模様。二次災害に注意し、倒木の下敷きの救出を自衛隊と災防協、建物内の救出は消防と警察、負傷者対応は消防と DMAT が中心となり、各機関が連携して対応するよう方針を決定。

09:53 自衛隊から倒木の下敷きの負傷者を救出完了の無線報告。負傷者を自衛隊員で科学館公園中央の一時救出場所まで搬送する報告を受ける。

09:55 札幌市南消防署のドローンが飛行し、負傷者に音声による広報を行い、札幌学院大学側の活動状況を撮影

10:00 札幌市消防航空隊から札幌学院大学の屋上に1名の避難者を確認したため、北海道防災航空室と連携して救出する旨の無線を受ける

10:10 札幌市消防航空隊から札幌学院大学の屋上の1名を救出完了した報告を受ける。

10:12 以後、各隊の訓練進捗状況を確認、適宜、必要な報告を受ける。

会場図



備考

4 道路啓開救出訓練（調整担当：厚別消防署）

実施時間（9：47～9:55）

9:30 9:35 9:40 9:45 9:50 9:55 10:00 10:05 10:10 10:15 10:20 10:25 10:30 10:35 10:40 10:45 10:50 10:55 11:00 11:05 11:10 11:15 11:20 11:25 11:30

訓練会場

札幌学院大学

訓練想定

石狩中部を震源とした札幌直下型地震が発生、厚別区では震度7を観測し建物の倒壊や火災が随所で発生した。

訓練概要

倒木の下敷きとなった負傷者を自衛隊が救出し、厚別区災害防止協力会の重機により倒木を撤去して道路啓開を行う訓練

参加団体及び人員（2団体 計10名）

- | | |
|----------------|----|
| (1) 陸上自衛隊第11旅団 | 8名 |
| (2) 厚別区災害防止協力会 | 2名 |

参加車両等（計2台）

- | | |
|------------------|----|
| (1) 自衛隊車両 | 1台 |
| (2) 厚別区災害防止協力会重機 | 1台 |

必要資機材

- (1) 倒木用丸太7本（厚別区役所で用意）
- (2) 枝葉0.5m³（厚別区役所で用意）
- (3) 負傷者用人形（厚別消防署で用意）

訓練行動

- 09:47 自衛隊と災害防止協力会が現着し、倒木の下敷きになっている負傷者を確認後、現地合同調整所に無線報告を行う。
- 09:48 チェーンソーで倒木を伐木し救出開始する。
- 09:49 負傷者を救出後、現地合同調整所に無線報告し、自衛隊員により一次救出場所（科学館公園）へ搬送する。
- 09:50 自衛隊による救出完了後、災防協により倒木（丸太）を歩道に移動（一時的に）又は重機で搬送
- 09:53 路上の倒木を撤去し、道路啓開終了した旨を自衛隊員が現地合同調整所に無線報告を行う。

会場図



備考

5 応急救護所・トリアージ訓練（調整担当：厚別消防署）

実施時間（9：55～10：30）

9:30 9:35 9:40 9:45 9:50 9:55 10:00 10:05 10:10 10:15 10:20 10:25 10:30 10:35 10:40 10:45 10:50 10:55 11:00 11:05 11:10 11:15 11:20 11:25 11:30

訓練会場

ふれあい広場、科学館公園

訓練想定

石狩中部を震源とした札幌直下型地震が発生、厚別区では震度7を観測し建物の倒壊や火災が随所で発生した。

訓練概要

応急手当及びトリアージを目的とした応急救護所を設置し、消防、医療機関、地域の学生が連携して活動を行う訓練

参加団体及び人員（12団体 計63名）

(1) 厚別消防署	11名
(2) 厚別消防団	6名
(3) 清田消防署	3名
(4) 北広島市消防本部	4名
(5) 江別市消防本部	4名
(6) 陸上自衛隊第11旅団	4名
(7) 札幌市医師会	3名
(8) 公益社団法人北海道看護協会	5名
(9) 札幌医科大学付属病院（DMAT）	5名
(10) 市立札幌病院	3名
(11) 札幌学院大学	5名
(12) 札幌医療看護専門学校	10名

参加車両等（計12台）

(1) 厚別水槽車	1台
(2) 厚別救急車	3台
(3) 北広島水槽車	1台
(4) 江別水槽車	1台
(5) 厚別救急車	3台
(6) 市立ドクターカー	1台
(7) 札幌医科大学付属病院エクモカー	1台
(8) 自衛隊救護車両	1台

必要資機材

- (1) 各車両積載資器材
- (2) トリアージタグ×100枚（受託者で調達）
- (3) 三角巾×100枚（受託者で調達）
- (4) ガーゼ×100枚（受託者で調達）

- (5) 負傷者用キット（消防学校から借用）
- (6) 応急救護所（厚別消防署で用意）
- (7) 折りたたみ担架（厚別消防署で用意）
- (8) 負傷者用人形（厚別消防署で用意）

訓練行動

- 9:55 札幌、北広島、江別の水槽車が到着し、札幌学院大学で発生した負傷者を消防隊がSTART法で選別し、自力歩行可能者15人を緑ポストに誘導
- 9:57 歩行できない負傷者15人を、消防隊、消防団、自衛隊が一次救出場所まで担架搬送
- 10:00 救急隊2隊が到着し、一次救出場所で二次トリアージを行う。重症の赤は応急救護所テントに担架搬送、中等症の黄は黄ポストに担架搬送を行う。担架搬送は北広島と江別の消防隊、消防団、自衛隊が連携して行う。トリアージタグの記載は札幌の消防隊が記載を行う。
- 10:08 ドクターカーが現場到着し、医師が現地合同調整所へ行き方針を共有する。
- 10:10 重症の赤は応急救護所テントに収容し、DMAT、医師、看護師による処置を行う。中等症の黄10人は災害支援ナース1人と看護学生2人がペアで外傷処置を行う。軽症の緑15人は災害支援ナース1人と学院生2人が外傷処置を行う。
- 10:15 救急隊が重症1名を搬送開始
- 10:17 救急隊が重症1名を搬送開始
- 10:19 救急隊が重症1名を搬送開始
- 10:21 救急隊が重症1名を搬送開始
I 街区医療機関への分散搬送映像
- 10:22 エクモカーに重症1名を収容して処置開始
- 10:24 自衛隊救護車両に処置を受けた中等症4名を収容して搬送

会場図



備考



へり救出訓練（調整担当：厚別消防署）

実施時間（10：00～10:12）

9:30 9:35 9:40 9:45 9:50 9:55 10:00 10:05 10:10 10:15 10:20 10:25 10:30 10:35 10:40 10:45 10:50 10:55 11:00 11:05 11:10 11:15 11:20 11:25 11:30

訓練会場

札幌学院大学

訓練想定

札幌学院大学の屋上に避難した学生1名が取り残されている。

訓練概要

屋上に避難した要救助者を北海道防災航空室と札幌消防航空隊が連携して救出し、救出状況をヘリテレで映像伝送する訓練

参加団体及び人員（3団体 計 名）

札幌市消防航空隊 9名（機内×6、安全管理×1、要救助者役×1、航空統制員×1）
 北海道防災航空隊 ○名
 厚別消防署 ○名

参加車両等（計3台）

- (1) 札幌市消防局消防航空隊（ヘリコプター1機）
- (2) 北海道防災航空隊（ヘリコプター1機）

必要資機材

なし

訓練行動

－北海道防災航空隊－		－札幌市消防局消防航空隊－	
10:00	へり 屋上に進入	へり	TV撮影及び配信
10:03	隊員 屋上に降下 救出準備		
10:04	へり 屋上から離脱		
10:06	隊員 札幌へりを誘導	へり	屋上に進入
10:09		隊員	屋上に降下、救出準備
10:11	隊員 救出支援	隊員	準備・救出開始
10:12		へり	屋上離脱

会場図



備考

1 訓練概要

(1) ヘリTV映像イメージ

防災ヘリの屋上への進入、隊員の降下、防災ヘリの屋上からの離脱、救出準備、札幌ヘリからの隊員の降下、救助準備、要救助者の吊り上げ。

(2) 救出要領

ア 防災航空隊員

屋上に降下、要救助者の救助準備（ピタゴール縛着）、札幌ヘリの誘導、誘導ロープの操作・回収

イ 札幌航空隊員

防災ヘリ離脱後、屋上に降下、ホイストノーカット・ピタゴール救出（誘導ロープあり・上空カット）

2 その他

(1) 訓練開始前に安全管理員、要救助者役及連絡員（厚別消防署）を屋上に配置

(2) 進入・離脱方向は当日の風により決定する。無風時は 西から東に進入

(3) ヘリの進入・離脱等のタイミングは航空統制員の指示による。

(4) 下図、青枠は不時着場として努めて開放

ヘリ進入



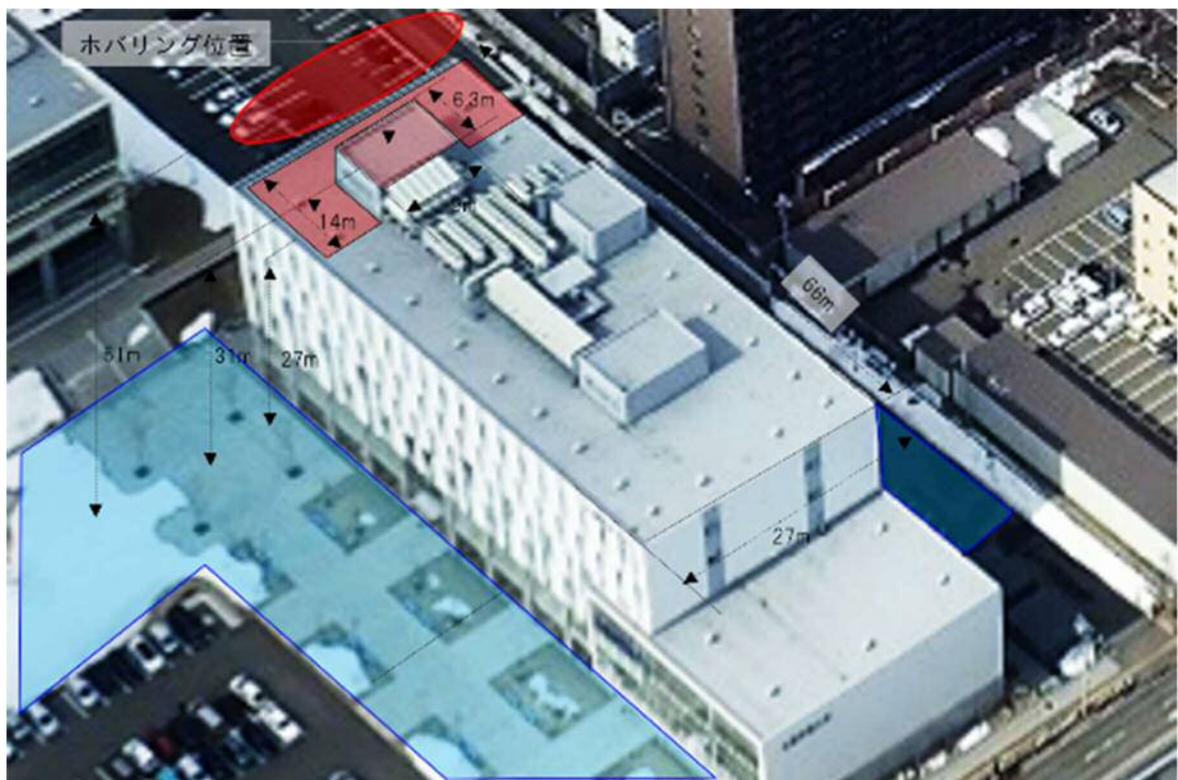
隊員降下



要救助者救出



機内収容



7 救出消火訓練（調整担当：厚別消防署）

実施時間（9：55～10：30）

9:30 9:35 9:40 9:45 9:50 9:55 10:00 10:05 10:10 10:15 10:20 10:25 10:30 10:35 10:40 10:45 10:50 10:55 11:00 11:05 11:10 11:15 11:20 11:25 11:30

訓練会場

札幌学院大学

訓練想定

石狩中部を震源とした札幌直下型地震が発生、厚別区では震度7を観測し建物の倒壊や火災が随所で発生した。

訓練概要

救助隊と特務中隊（警察）が連携して要救助者を救出する訓練と、三市消防隊とはしご隊による火災防御訓練

参加団体及び人員（5団体 計38名）

- | | |
|--------------|-----|
| (1) 厚別消防署 | 13名 |
| (2) 厚別消防団 | 4名 |
| (3) 北広島市消防本部 | 4名 |
| (4) 江別市消防本部 | 4名 |
| (5) 北海道警察本部 | 5名 |
| (6) 札幌市消防航空隊 | 8名 |

参加車両等（計7台）

- | | |
|-----------------------|----|
| (1) 厚別救助車 | 1台 |
| (2) 厚別はしご車 | 1台 |
| (3) 厚別水槽車 | 1台 |
| (4) 北広島市消防水槽車 | 1台 |
| (5) 江別市消防水槽車 | 1台 |
| (6) 北海道警察本部 | 1台 |
| (7) 札幌市消防局消防航空隊ヘリコプター | 1機 |

必要資機材

- | | |
|--------------|--------------|
| (1) 各車両積載資器材 | |
| (2) 発煙筒 | 2個（受託者で調達） |
| (3) 訓練人形 | 2体（厚別消防署で用意） |

訓練行動

- 9:55 消防車両3台（三市水槽隊）が緊急走行で現場到着する。
厚別、北広、江別の水槽3隊は活動方針を共有し応急救護の訓練へ
- 10:12 厚別救助隊と特務中隊（警察）が活動方針を共有し、救出訓練開始
- 10:13 要救助者（訓練人形）を厚別消防署救助隊がはしご車のバスケットを支点に地上までの救出を行う。
- 10:17 要救助者（訓練人形）を厚別消防署救助隊と北海道警察本部特務中隊が連携して斜

行線による救出を行う。

10:22 火災発生のため、4階で活動する救助隊員が地上へ緊急脱出の降下を行う。

10:28 札幌市、江別市、北広島市の消防隊が連携して、地上とはしご車のバスケット上から建物に向かって一斉放水を行う。

10:28 一斉放水のタイミングで、札幌市消防局消防航空隊ヘリコプターが札幌学院大学からふれあい広場の上空を通過する。(訓練終了の合図)

会場図



備考

※「備考」欄に「〇〇より回収⇒搬送」とあるものは、厚別区役所等で用意した資機材を、所定の場所から会場への搬送し、訓練終了後は、会場から所定の元の場所へ戻すこと。

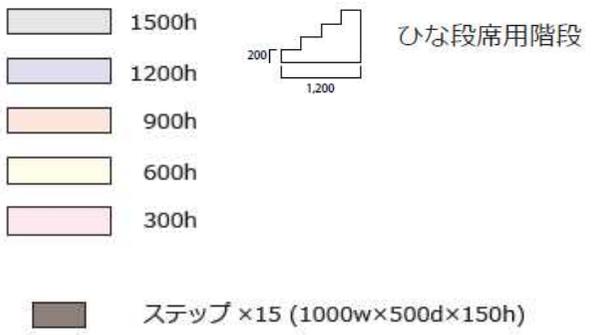
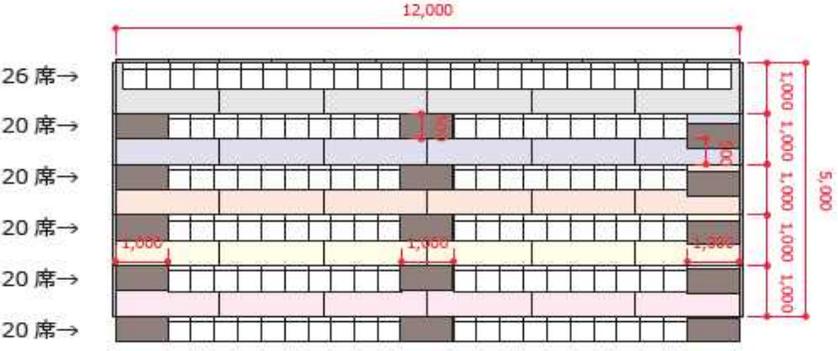
NO.1	項目・品名	規格	数量	単位	備考
(1)	令和5年9月6日(水) 札幌市総合防災訓練 会場設営・放送等業務				
	■会場機材関係-1				
	[来賓席]				
	ひな壇(6段)	仕様別紙6-2	1	基	
	ひな壇増用階段	仕様別紙6-2	2	台	
	パイプイス		100	脚	
	長方形テーブル	白布込み	12	本	
	[観覧席]				
	パイプイス		500	脚	
	[受付]				
	テント用ウェイト	1個あたり20kg	30	個	
	長方形テーブル	白布込み	8	本	
	パイプ椅子		10	脚	
	[実況席及び放送映像席]				
	長方形テーブル	白布なし	16	本	
	パイプ椅子		32	脚	
	マイクスタンド	1800w×450d×700h	1	本	
	■会場機材関係-2				
	[災害対策本部]				
	長方形テーブル	白布込み	8	本	
	パイプ椅子		16	脚	
	[訓練協力機関 展示会場]				
	テント用ウェイト	1個あたり20kg	180	個	
	長方形テーブル		20	本	
	パイプ椅子		40	脚	
	[車両・装備品 展示会場]				
	長方形テーブル		6	本	
	パイプ椅子		12	脚	
	[仮設備品及び資材関係]				
	カラーコーン		200	個	当日及び仮設用
	コーンウェイト		200	個	当日及び仮設用
	コーンバー		100	本	当日及び仮設用

NO.3	項目・品名	数量	単位	備考	
	■各訓練機材関係-3				
	【看板関係】				
	会場入口タイトル看板	1800w×1800h/木枠、油性I・J出力	1	枚	仕様別紙6-3
	事前告知用立看板	900w×1800h/木枠、油性I・J出力	5	枚	仕様別紙6-4及び6-5
	束石及び支持材		1	式	
	■放送・音響等設備関係-1				
	【映像設備】				
	カメラ	SONY、PMW-320K ※もしくは同等品	3	台	
	三脚		3	台	
	カメラスイッチャー	AV-HS450	1	台	
	送出力スイッチャー	V-800HD	1	台	
	その他周辺機器・ケーブル類	収録機含む	1	式	
	ワイヤレス伝送システム		1	式	
	40インチモニター	搬入搬出費用込	4	台	
	モニター用キャリアابلスタンド	搬入搬出費用込	4	台	
	大型映像車	9/5～9/6（使用時間13時間、放映時間8時間）	1	式	厚別区役所にて仮押さえ済み
	■放送・音響等設備関係-2				
	【音響設備】 【スピーカー関係】				
	デジタルミキサー	M32R	1	台	
	デジタルパワーアンプ	M50Q、T604	2	台	
	ハイインピーダンス パワーアンプ	CMP-250	2	式	
	スタンドスピーカー	PS15*4台、SX300*6台、D8*2台、BOSE101*2台	12	台	
	トランペットスピーカー	TC-730AM	6	式	
	上記スタンド類		12	台	
	ワイヤレスシステム	Mackie PWD、TOA PD15	1	式	
	上記コード類		1	式	
	【MIC】				
	ワイヤレスハンドマイク		4	本	
	アンテナ	ケーブル込み	1	式	
	有線マイク		9	本	
	無線集音マイクシステム		1	式	
	マイクケーブル		1	式	
	CD デッキ		2	台	
	【その他備品】				
	コードリール		1	台	
	ゴムマット		1	式	
	ケーブルマット		1	式	
	養生セット		1	式	
	【電源設備】				
	発電機(37/45KVA)		1	台	
	上記燃料		1	式	
	上記運搬費		1	式	

NO.4	項目・品名	数量	単位	備考
	【放送等業務 諸費】			
	プロデューサー	1	式	
	テクニカルディレクター	1	式	
	アシスタントディレクター	1	式	
	カメラマン	1	式	
	スイッチャー	1	式	
	送出オペレーター	1	式	
	音声エンジニア	1	式	
	音響オペレーター	1	式	
	音響アシスタント	1	式	
	司会	1	式	
	中継技術関係 諸費	1	式	
	【会場設営図・進行シナリオ等 作成業務】			
	会場図面製作費	1	式	
	進行シナリオ製作費	1	式	
	看板データ作成	1	式	
	【提供映像及び資料の編集業務】			
	事前撮影費	1クルー、1日料金	1	日
	事前撮影編集費	5分程度の動画1本程度想定	1	式
	■会場設営資機材等諸費			
	資機材運搬費及び作業車両等	4 t 箱、2 t 箱	2	式
		作業人工移動車両	1	式
	設営・撤去人件費	設営	1	式
		撤去	1	式
	現場管理費	イベント設営保険含	1	式
	雑材・消耗品費		1	式
	廃材処理費	3立米程度想定（訓練・運営関係で発生するゴミも概算想定）	1	式
	■その他の委託業務			
	(1)会場警備	9/4 9:00~18:00 1ポスト2名（交代要員1）	2	名
		9/5 9:00~18:00 1ポスト2名（交代要員1）	2	名
		9/6 7:00~13:00 8ポスト8名	8	名
		9/6 7:00~18:00 1ポスト2名（本番交代含む）	2	名
		9/7 9:00~18:00 1ポスト2名（交代要員1）	2	名
	(2)会場夜間警備	9/5 18:00~翌7:00 2ポスト3名	3	名
		9/6 18:00~翌9:00 1ポスト2名	2	名
	(3)首掛けふだ	素材・紙・入力・作業費	700	枚

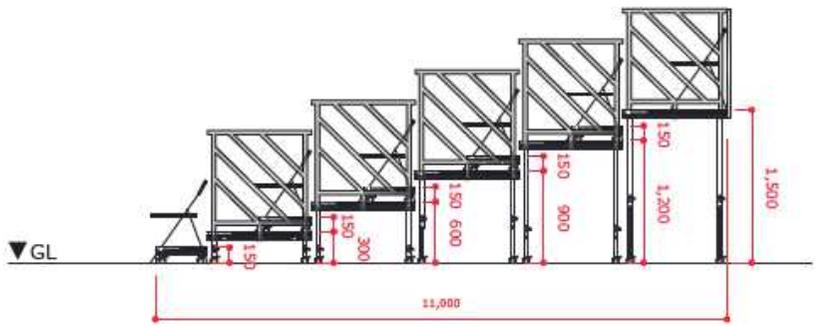
NO.5	項目・品名	数量	単位	備考
2	令和5年9月8日(金)12時00分～同年9月10日(日)17時00分 防災に関する展示業務等			
	■展示準備			
	(1)防災普及啓発パネル作成			
	啓発パネル作成	3	枚	パネル1枚に吊元2点付け
	(2)表題及び看板パネルの作成			
	表題パネル	1	枚	ステンパネル7mm厚(1800mm×900mm)
	看板パネル	4	枚	ステンパネル5mm厚(450mm×450mm)
	(3)上記(1)・(2)デザイン費用一式	1	式	
	■展示物等の搬入および会場の設営			
	(1)会場の設営に係る展示物等の搬入			
	①展示物の集荷	1	回	
	(2)会場の設営			
	展示物の搬入	1	回	
	会場設営	2	名	
	■展示物の管理			
	(1)警備員			
	9/8 20:00～25:00	20:00 まで職員対応	1	名
	9/9 5:45～10:00		1	名
	9/9 20:00～25:00	20:00 まで職員対応	1	名
	9/10 5:45～10:00		1	名
	■会場の撤収および展示物の搬出			
	(1)会場の撤収			
	会場撤去	2	名	
	(2)展示物等の搬出			
	展示物等の搬出	1	回	
	展示物の返却	1	回	
	■会場内における使用物品			
	看板パネル表示台(サインスタンド)	5	本	
	長机	11	本	
	白布	20	枚	
	映像放映用PC	1	台	
	パイプ椅子	4	脚	

■平面図



126席

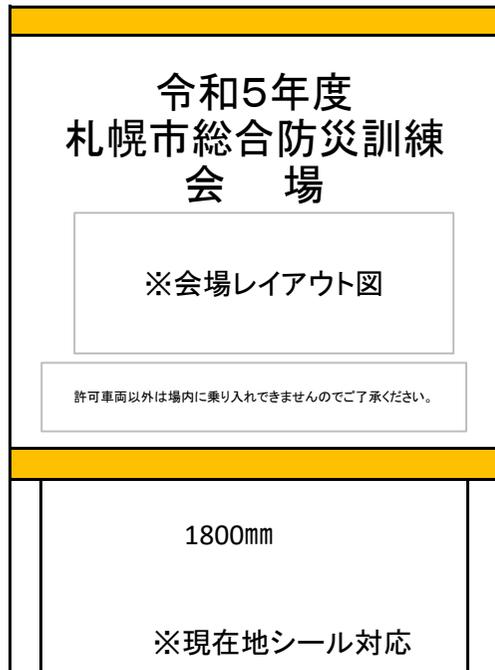
■側面図



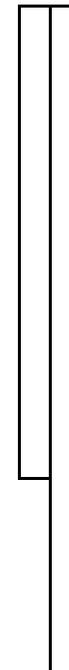
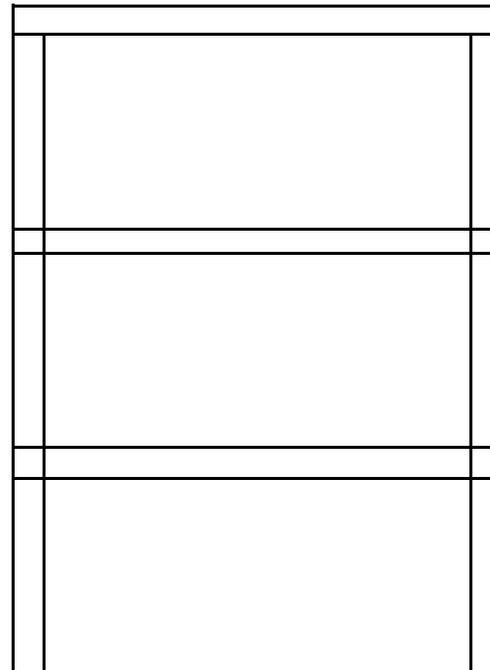
- ・ 強風対策を万全にすること
- ・ 座席に雨や日差しが入らないよう、状況に合わせて棲部にもテントをつける等の措置をすること
- ・ 椅子席は126席用意
- ・ ステージ上に凹凸がある場合は、足場等の土台を作り水平を維持させること。また、その上に椅子席のひな壇を設置すること
- ・ 階段を左右（ステージ横）に計2か所設置すること

①会場入口タイトル看板

■1800mm×1800mm 片面 木製看板（木製+油性溶剤 I・J出力） ×1枚



1800mm

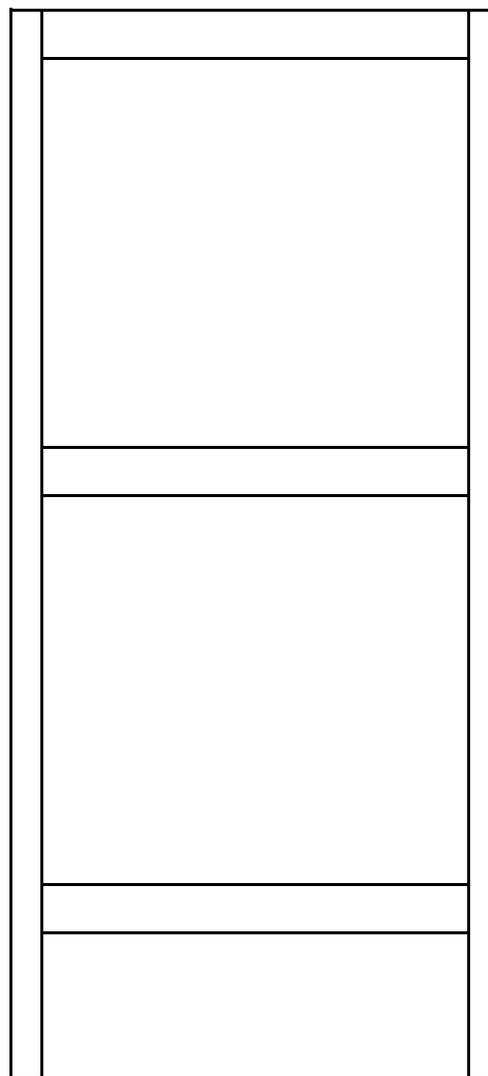
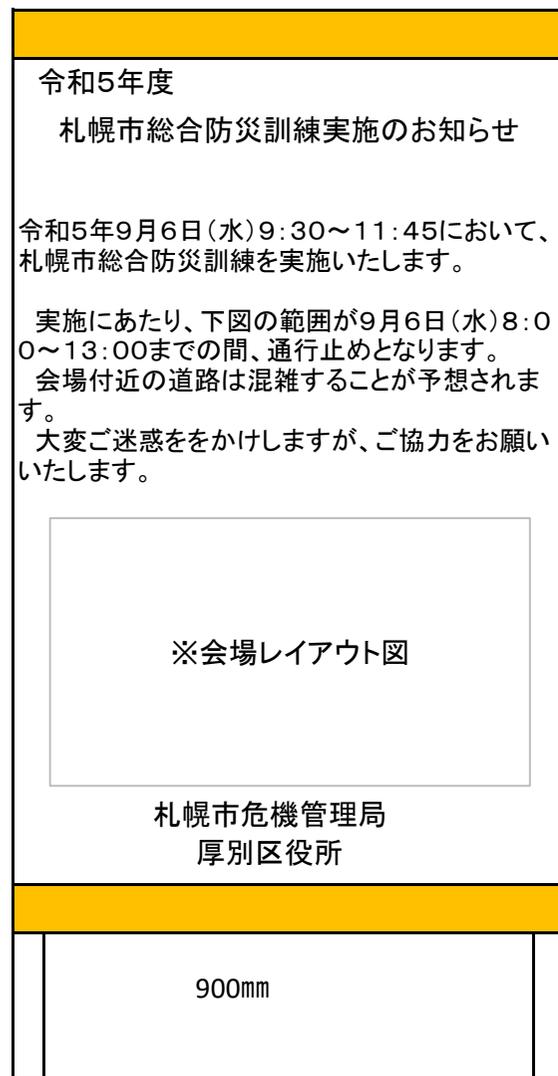


- (留意事項)
- ・自立設置
 - ・自立支持材、固定材含
 - ・枠材 45mm×45mm
 - ・看板を固定するにあたっては、直接地面に打ち込む等、強風対策を行うこと。

②事前告知用 立て看板(通行止め)

別紙6-4

■900mm×1800mm 両面 木製看板 ×4枚

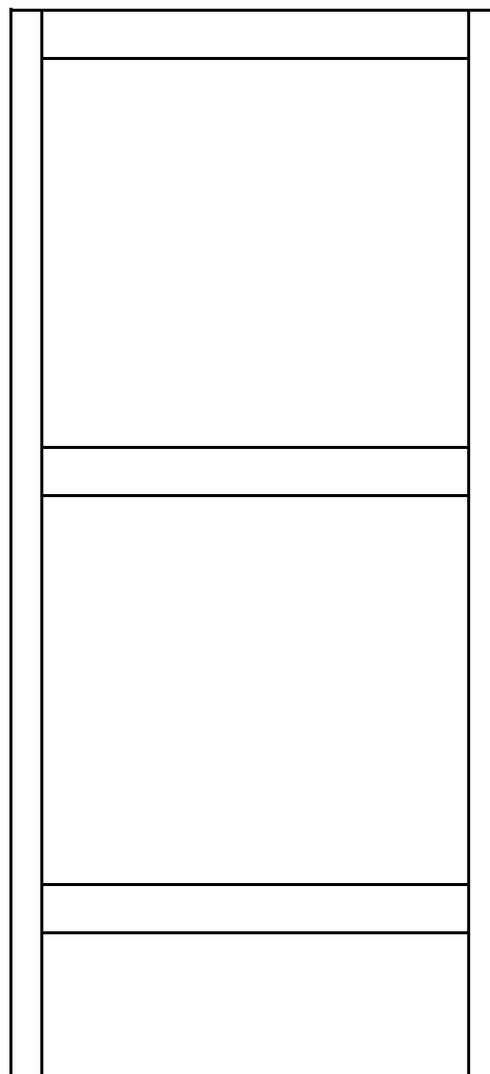
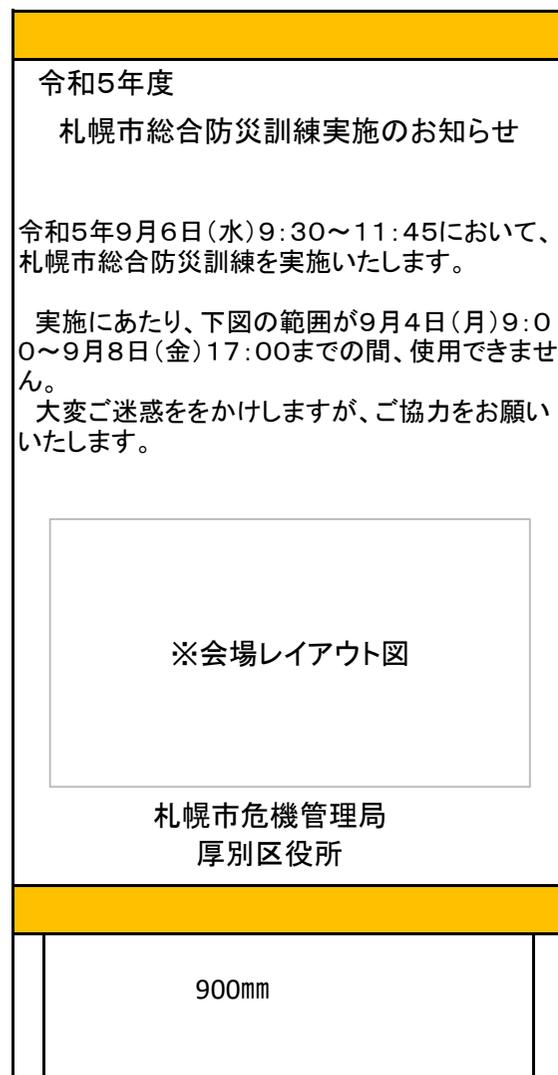


- (留意事項)
- ・木枠看板にて製作
(木枠ベニヤベース+出力貼+ラミネート加工)
 - ・枠材は45mm×45mm
 - ・看板を固定するにあたっては、直接地面に打ち込む等、強風対策を行うこと。
 - ・当該看板は、当日の通行止め区間でも使用できる文言とすること。

③事前告知用 立て看板(会場使用不可)

別紙6-5

■900mm×1800mm 両面 木製看板 ×1枚



- (留意事項)
- ・木枠看板にて製作
(木枠ベニヤベース+出力貼+ラミネート加工)
 - ・枠材は45mm×45mm
 - ・看板を固定するにあたっては、直接地面に打ち込む等、強風対策を行うこと。





会場内放送業務内容

1 司会者による訓練の進行管理

司会者 1 名と訓練解説者（職員） 1 名による掛け合いを中心とした進行管理を行うこと。また、司会者はアナウンス技術に熟達した専門のアナウンサーが行うこと。

2 訓練映像及び音声の会場内放送

(1) 映像の中継

区災害対策本部テントの隣に放送用テント（スイッチャー席、実況席、映像統括席、音響オペレーター席）を設置すること。また、スイッチャー席にて全ての中継カメラの映像をモニタリング可能な状態にし、委託者の出す指示に従い、モニタリング中の映像を実況席、映像統括席、音響オペレーター席、本部席及び大型映像車に送り、中継すること。

(2) カメラ配置

カメラは会場に 3 台設置し、すべての訓練をくまなく撮影できるように配置すること。なお、ブロードバンドで撮影した映像も随時中継することから、必要な設備を用意すること。

(3) カメラマン

中継用カメラは、操作技術に熟達した専門のカメラマンが操作すること。

(4) 音声の中継

司会者の音声等が会場内（別紙 7-3 の範囲）に聞こえるよう、必要な音響装置を設置すること。また、近隣住民への騒音を考慮し、訓練会場内のみ音声聞こえるよう、出来る限り音響設備の配置場所と音量に配慮すること。

(5) ケーブルカバーの設置

訓練等の妨げにならないよう映像及び音声のケーブルカバーを設置すること。

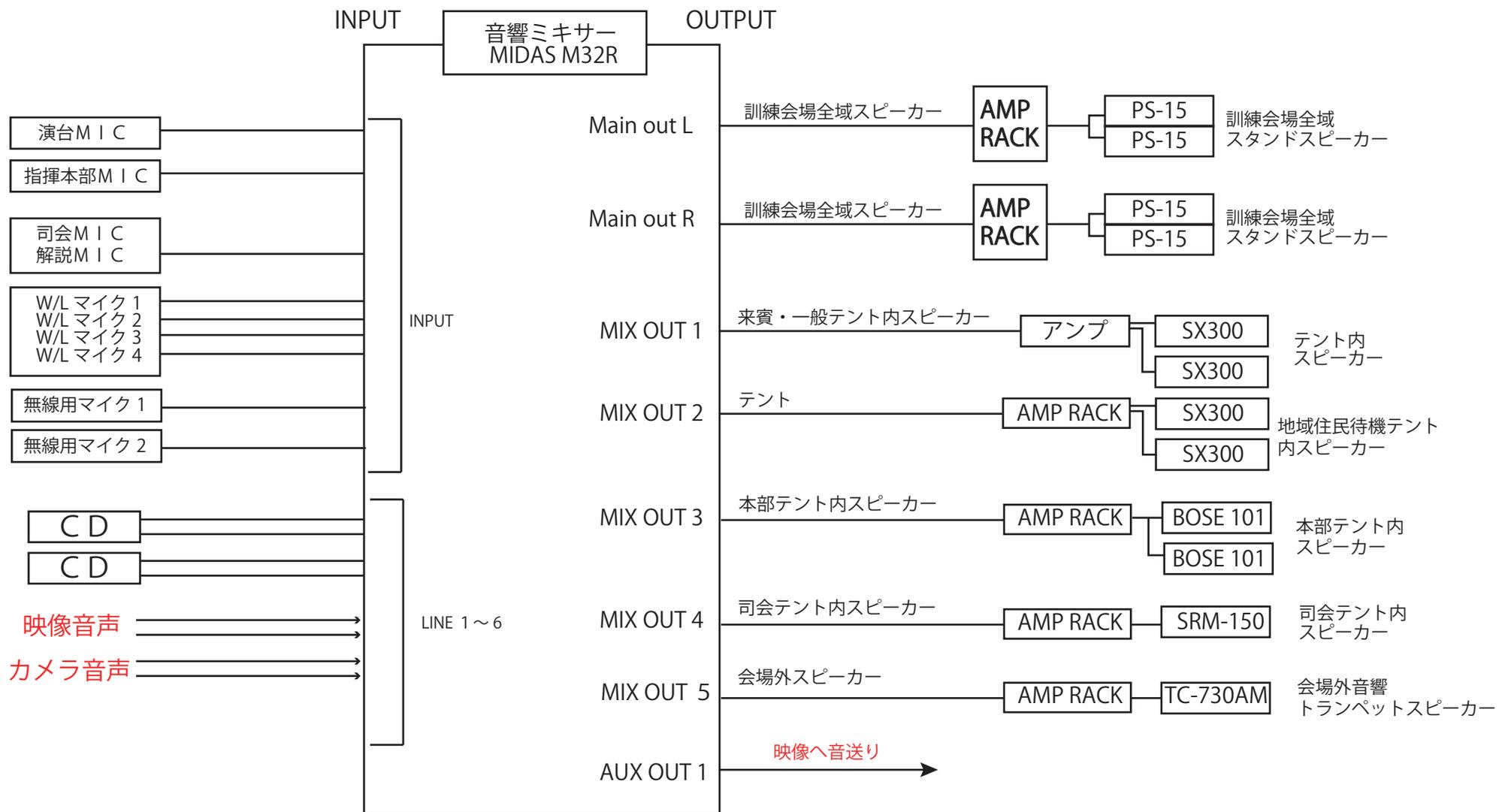
3 上記に係る必要資器材の用意

撮影用 HD カメラ（画面サイズ 16 : 9） 3 台、音響機器、電源車等その他必要資器材一式を用意すること。

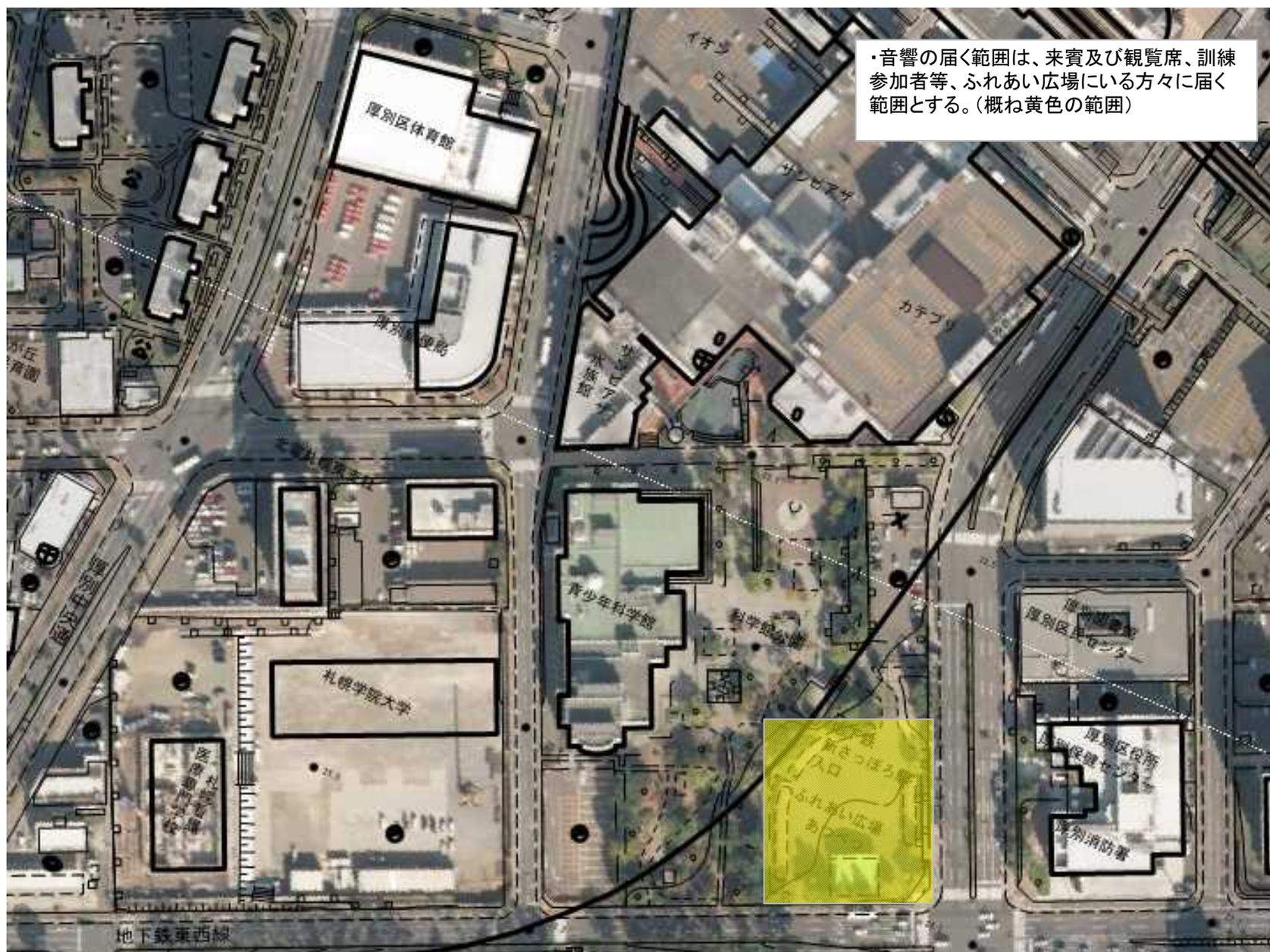
4 訓練映像

各訓練を撮影する中継用のカメラは、単体記録収録（各カメラの映像は中継するとともに、各カメラ本体内にも記録しておく）とすること。また、外部映像を入力し、大型映像車へ出力できる装置を用いて撮影を行うこと。

音響システム系統図



●音響範囲



令和2年度 札幌市総合防災訓練

MC用進行台本

内部資料・関係者手持ち資料
改編／コピー厳禁
2020年9月7日 最終校



北区まちづくりキャラクター「ぽっぴい」

YAMACHI
CORPORATION

株式会社 ヤマチコーポレーション

令和2年度 札幌市総合防災訓練 タイムスケジュール

訓練実施：令和2年9月1日(火) 屋外訓練：13時00分～14時30分 屋内訓練：15時00分～16時00分

訓練項目	時間	ラップ	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00
屋外会場 ガトーキングダムサッポロ 第2駐車場 茨戸川訓練会場 (※青色表示)									
事前アナウンス	13:00	'00"00							
1 北区災害対策本部設置運用訓練	13:05	'05"00							
2 被害状況把握・情報収集伝達訓練	13:10	'05"00							
3 地域住民共助訓練	13:15	'05"00							
4 現地合同調整所訓練(映像1回目)	13:17	'05"00							
5 溺水者救出訓練(泳いで救出)	13:17	'03"00							
6 ドローン操作・情報収集・搜索運用検証(1)	13:20								
7 水害孤立住民救出訓練	13:25	'05"00							
8 ドローン操作・情報収集・搜索運用検証(2)	13:28	'02"00							
9 水害車両救出訓練(映像1回目)	13:30	'03"00							
10 流木・土砂撤去訓練(映像1回目)	13:33	'03"00							
11 応急救護所設置・負傷者トリアージ訓練	13:38	'05"00							
12 現地合同調整所訓練(映像2回目)	13:43	'05"00							
13 土のう積み訓練	13:48	'05"00							
14 ドローン操作・情報収集・搜索運用検証(3)	13:51	'03"00							
15 水害車両救出訓練(映像2回目)	13:56	'05"00							
16 地域住民体験・車両展示 コーナー紹介	14:00	'04"00							
17 流木・土砂撤去訓練(映像2回目)	14:03	'03"00							
18 現地合同調整所訓練(映像3回目)	14:05	'02"00							
19 水害家屋救出訓練	14:15	'10"00							
20 ドローン操作・情報収集・搜索運用検証(4)	14:17	'02"00							
21 溺水者救出訓練(ボート・潜水救出)	14:25	'18"00							
22 溺水者救出訓練(ヘリコプターホスト救出)	14:25								
23 現地合同調整所訓練(映像4回目)	14:30	'05"00							
会場移動(時間調整・予備時間)	15:00	'30"00							
屋内会場 ガトーキングダム 1階大宴会場「カベルネ」 15時00分～16時00分									
24 避難所運営訓練 導入部	15:02	'02"00							
25 1.検温	15:05	'03"00							
26 2.受付・臨時受付・動線分け	15:08	'03"00							
27 3.外国人等対応訓練	15:15	'07"00							
28 4.滞在スペース設置訓練 ・福祉避難スペース設置訓練	15:20	'05"00							
29 5.感染症室設置訓練	15:25	'05"00							
30 6.通信手段の確認訓練	15:30	'05"00							
31 7.実技訓練	15:35	'05"00							
32 8.防災用品の展示等	15:53	'17"00							
33 ✕ 締め	15:55	'02"00							
市長講評	16:00	'00"00							

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
00:00	<p data-bbox="218 213 396 244">事前アナウンス</p> <p data-bbox="218 364 401 395">※報道機関対応</p> <p data-bbox="254 549 362 580">訓練想定</p> <p data-bbox="254 1328 362 1359">注意事項</p>	<p data-bbox="451 213 1218 281">MC「会場へお越しの皆さまへお知らせします。令和2年度の札幌市総合防災訓練は、この後、午後1時より行います。」</p> <div data-bbox="458 302 876 343" style="border: 1px solid red; padding: 2px; text-align: center;"> <p data-bbox="482 308 852 339">※報道機関への告知がある場合</p> </div> <p data-bbox="451 364 1246 468">MC「各報道機関の皆さまにご連絡します。この後、〇〇テント付近で本日の訓練概要についてご説明します。時間までにお集まりください。(繰り返し)」</p> <p data-bbox="451 549 1229 799">MC「毎年9月1日は『防災の日』です。又、令和2年8月30日から9月5日までは『防災週間』です。 これは1923年(大正12年)の9月1日に発生して10万5千人余りが犠牲となった、関東大震災の教訓を忘れないことと、例年8月31日から9月2日の頃は、立春を起算日として210日目に当たり、台風が多く来て天気が荒れやすいと言われていることから、災害への備えを怠らないよう、心構えを準備する日として、創設されました。」</p> <p data-bbox="451 845 1236 1210">MC「本日行われます令和2年度札幌市総合防災訓練は、『令和2年8月23日に発生した台風20号が令和2年8月31日、猛烈な勢力を保ったまま北海道に上陸し、札幌市において、同年8月31日から9月1日正午にかけて暴風雨が発生したことに伴い、石狩川の水量が増大し、氾濫危険水位まで上昇している。』と発表。北区内では、河川の氾濫による流木・土砂等に押し流された複数の家屋及び車両の浸水・倒壊や火災が随所に発生したことに加え、ライフライン機能が停止のほか、主要幹線道路が寸断され、北区内に甚大な被害を及ぼした』との想定に基づき、防災関係機関、各団体及び地域住民の方々が連携し、災害に対応していただく総合災害対応の防災訓練となります。」</p> <p data-bbox="451 1328 1229 1508">MC「今年は、新型コロナウイルスによる感染症拡大防止のため、「新北海道スタイル」の基、ご来場の皆様には“マスクの着用”と“一定の距離を保つ”ソーシャルディスタンスの徹底をお願いしております。また、熱中症防止のため、“こまめな水分補給”等に、ご留意いただきます様、重ねてお願いいたします。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
13:00	<p data-bbox="225 213 389 244">訓練開始告知</p> <p data-bbox="201 323 414 391">北区災害対策本部 設置運用訓練</p> <p data-bbox="201 472 414 578">～映像～ 災害対策本部映像 会場に流す。</p>	<p data-bbox="448 213 1222 244">MC「只今より、令和2年度札幌市総合防災訓練を開始いたします。」</p> <p data-bbox="448 323 1236 428">MC「見上 雄一（みかみ ゆういち）北区長から、現在確認している気象情報や河川の状況についての説明と対応に関する職員への指示を行います。」</p> <p data-bbox="448 472 1236 1023"> 災対本部長(区長)「13時に札幌市に洪水警報が発表されました。篠路水位観測所の水位は現在4mですが今も上昇を続けており、1時間後には避難判断水位の4.6mに到達する見込みから北区災害対策本部を設置します。災害対策副本部長は市民部長、土木部長、保健福祉部長、保健担当部長とします。副本部長は職員に対し、直ちに第三非常配備体制をとり、災害対策に当たるよう指示してください。まずは区内の被害状況について早急に情報収集を行い、関係機関と連携を密に図りながら、区民の安全確保・人命救助を最優先に迅速な行動をとってください。また、今後の「避難準備・高齢者等避難開始」及び「避難勧告」の発令に備え、篠路茨戸地区、拓北あいの里地区の避難所の開設準備を進めてください。 さらに、北海道に対してヘリコプターの派遣を要請し、河川周辺の被害状況を報告するよう伝えてください。北消防署におかれては、災害対策本部に職員を派遣のうえ、区内の被害状況を随時報告願います。以上。」 </p> <p data-bbox="448 1104 1236 1286">MC「札幌市では、気象警報(大雨・暴風)又は洪水警報が発表され、市長が総合的な災害対策を実施する必要があると認める場合や気象特別警報(大雨・暴風)が発表された場合に災害対策本部が設置されます。北区長が本部長となり、職員を指揮しますが、さっそく区職員に災害に対応するよう指示を出しました。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
	MC&解説者席 映す	<p>MC「本日の災害対応訓練のメイン解説を札幌市北消防署の羽生(はにゅう)警防課長、防災関係の解説を北区役所の田口総務企画課長にお願いします。」</p> <p>解説者「自己紹介」</p> <p>MC「北区役所に災害対策本部が設置されました。このような場合、北消防署ではどのように対応するのでしょうか。」</p> <p>解説者「はい、まず、警戒体制を強化する上で、北消防署に署隊本部という警戒本部を立ち上げます。具体的には、非常招集計画に基づき、休日の職員を参集させ、災害対応部隊の増強を図り、各種災害の迅速な対応に備えます。」</p> <p>MC「消防職員を招集して、災害に備える、ということですね。」</p> <p>MC「先ほど区長から指示のあった避難所の開設情報ですが、エリアメールや札幌市防災アプリ『そなえ』でプッシュ通知されました。『そなえ』では、このような避難勧告等の避難情報も受信できますので、ぜひご利用ください。」</p> <p>MC「次に北区役所の田口総務企画課長にお伺いいたします。災害があったらどうしたらいいのか困ってしまいそうですが、こうやってアプリやエリアメールで自動的に情報が受け取れるのは便利で安心ですね。」</p> <p>解説者(田口総務企画課長)「災害時には自ら進んで情報を収集し、判断し、いち早く避難することが何よりも重要です。特に洪水などの水害に対しては、災害があったらどうしようではなく、災害になる前にどうしようということを考えなければいけません。与えられる情報に頼るだけでなく、自らラジオやテレビ、インターネットで情報収集することはもちろん、日ごろからハザードマップを確認して自分の地域の災害リスクを確認し、避難行動をイメージするようにしてください。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
13:05	<p data-bbox="225 215 389 319">被害状況把握 情報収集伝達 訓練</p> <p data-bbox="204 401 411 505">～映像～ ヘリの飛行映像を 会場に流す。</p> <p data-bbox="229 588 385 692">《ライブ音源》 道ヘリと本部 ヘリTV無線</p> <p data-bbox="225 816 389 919">～映像～ ヘリTV映像を 会場に流す。</p> <p data-bbox="237 1002 378 1065">陸上会場の ヘリTV映像</p> <p data-bbox="225 1437 389 1541">～映像継続～ ヘリTV映像を 会場に流す。</p>	<p data-bbox="448 215 1215 319">MC「皆さま、会場の大型モニターをご覧ください。北区災害対策本部からの要請を受けて、北海道防災航空ヘリコプターが情報収集のため、会场上空に到着しました。」</p> <p data-bbox="448 401 1233 547">MC「北海道防災航空隊は、平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震では、被災地に出動し26名の尊い命を救出しました。また、今年度4月から7月未までの間に、北海道内の山岳遭難事故などで18名の救出活動を実施しております。」</p> <p data-bbox="448 588 1238 650">道ヘリ「北海道ヘリTV1から北区災害対策本部、こちらの感度いかが、どうぞ。」</p> <p data-bbox="448 692 1222 774">本部「北区災害対策本部から北海道ヘリTV1、そちらの感度良好、どうぞ。」</p> <p data-bbox="448 816 1205 878">道ヘリ「了解。現在、ヘリTV映像を送信中、受信状況はどうか、どうぞ。」</p> <p data-bbox="448 919 966 961">本部「映像を確認。受信状況は良好、どうぞ。」</p> <p data-bbox="448 1002 1238 1168">道ヘリ「訓練、現在、札幌市北区上空を調査中。東茨戸、ガトーキングダムサッポロ付近の茨戸川で外水氾濫の発生を確認した。住宅、車両が流されているのを確認、甚大な被害が発生している模様。さらに浸水した住宅に住民が取り残されている模様。映像を確認願う。どうぞ。」</p> <p data-bbox="448 1210 719 1251">本部「対策本部、了解。」</p> <p data-bbox="448 1292 1219 1355">MC「北海道防災航空隊によるヘリTV映像を会場の大型モニターで引き続きご覧ください。」</p> <p data-bbox="448 1437 1152 1500">MC「このヘリTV映像はどのように活用されるのでしょうか？ 羽生(はにゅう)さん、よろしくお願いします。」</p> <p data-bbox="448 1541 1238 1769">解説者「はい、ヘリコプターから撮影した映像は、テレビ伝送システムにより、札幌市の消防指令管制センターや札幌市災害対策本部にリアルタイムで配信されます。さらには衛星通信ネットワークを活用して、北海道や総務省消防庁にも、同様の映像配信が可能です。いずれにいたしましても、災害対策本部において、災害の実態を早期に把握し、対応に万全を期すために活用されております。」</p> <p data-bbox="448 1810 1229 1914">MC「遠く離れた災害対策本部などでも、直接上空からの映像を確認して災害実態をつかむことができそうですね。全体を俯瞰できま すし、非常に重要な任務であると感じました。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
13:08	<p>～映像切替～ 通報者の映像を 会場に流す。</p> <p>《ライブ音源》 携帯電話による通報</p> <p>通報者が見ている 景色災害現場全体 の映像を流す。</p> <p>地域住民共助訓練の 現場映像を流す。</p>	<p>MC「皆さま、訓練会場に向かって左手をご覧ください。災害現場付近の住民が119番通報訓練を行います。」</p> <p>(通報者:電話をかける。)</p> <p>指令員「119番消防です。火事ですか救急車ですか。」</p> <p>通報者「川が氾濫し、助けを求めている人がたくさんいます。」</p> <p>指令員「今、あなたは安全なところにいますか？」</p> <p>通報者「はい。川の氾濫の影響のないところにいます。」</p> <p>指令員「今いる住所はわかりますか。」</p> <p>通報者「札幌市北区東茨戸の番地で、詳しい住所は分かりません。」</p> <p>指令員「近くに目標となる大きな建物はありますか？」</p> <p>通報者「ガトーキングダムサッポロの駐車場でプールが近くに見えます。」</p> <p>指令員「わかりました。駐車場に向けて救急車を向かわせました。状況を詳しく教えてください。今見える範囲で、助けが必要な方はどのくらいいますか？」</p> <p>通報者「目の前に怪我をした人が2人います。」</p> <p>指令員「怪我をした人の近くに行って、呼びかけてみて返事のない方、ぐったりしている方はいますか？」</p> <p>通報者「一人だけぐったりして反応のない人がいます。」</p> <p>指令員「その方は男性ですか？女性ですか？」</p> <p>通報者「男性です。」</p> <p>指令員「おいくつくらいの方ですか？」</p> <p>通報者「4,50代くらいだと思います。」</p> <p>指令員「何かに挟まれていたり、出血などはありますか？」</p> <p>通報者「はい。大きな流木の下敷きになっています。」</p> <p>指令員「周りにいる方たちで、その方を助けることはできますか？」</p> <p>通報者「できる限りやってみます。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
	<p>車両や家屋の映像を流す。</p>	<p>指令員「消防車も向かわせています。怪我をしている人以外に消防の助けが必要な方はいますか？」</p> <p>通報者「車が土砂に埋まっているのが見えます。遠くには家が土砂に埋まっているのが見えます。」</p> <p>指令員「わかりました。消防車・救急車を向かわせいますが、サイレンの音が聞こえたら誘導をお願いしますか？」</p> <p>通報者「わかりました。」</p> <p>指令員「あなたのお名前を教えてください。」</p> <p>通報者「〇〇です。」</p> <p>指令員「ご協力ありがとうございます。もし、身の危険を感じた場合は、すぐにその場を離れ、安全な場所に避難してください。」</p> <p>MC「119番通報ですが、注意すべき点など教えていただけますか？」</p> <p>解説者「はい、119番通報の注意点は、落ち着いて「聞かれたことに答える。」と言う一言につきます。通報を受ける指令員は、消防部隊に出動指令をかけるプロフェッショナルです。指令員を信じて、「聞かれたこと」に答えて下さい。今の通報は、「聞かれたことに、落ち着いて答えること」ができていて、とても良い例だと思います。また、住所を確実に伝えることが、消防隊をいち早く出動させるために、とても重要なこととなります。」</p> <p>MC「私も、もしものときに備えて、119番通報の際は、落ち着いて「聞かれたことに答える」ようにしたいと思います。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
13:10 13:15	<p>地域住民共助訓練</p> <p>～映像切替～ LIVE映像</p> <p>引き気味 ↓ 寄り映像</p>	<p>MC「続きまして、地域住民共助訓練が始まります。太平百合が原連合町内会の方々が訓練を実施します。」</p> <p>MC「茨戸川付近の住民が避難するとともに、住民同士で救助活動を実施しています。」</p> <p>MC「倒壊した建物や重たい流木の下敷きになっている人がいるようです。地震災害の例になりますが、阪神淡路大震災では、倒壊した建物から救出された人の約8割が家族や近所の住民により救出されたという調査結果がありますよね。 羽生(はにゅう)さん、実際に住民同士で救出するためにはどうしたら良いですか？」</p> <p>解説者「重量物の下敷きになったり、建物に閉じ込められたりした場合は、人力のみならず、身近にあるものを使った救出を試みてください。各町内会でも管理している自主防災資器材の中には、油圧式のジャッキが入っていますので、これらを使用してガレキを持ち上げて隙間を作り、救出することが可能です。もちろん、自家用車や自宅のガレージにあるジャッキなども活用できます。また、自主防災資器材の中には金テコと呼ばれている鉄の棒も入っていますので、テコの原理を使ってガレキを除去することも可能です。現在は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各町内会での行事等がやむなく中止されているところも多いかと思いますが、定期的に自主防災訓練を実施し、皆さんが訓練に参加して、災害に備えることが重要だと思います。」</p> <p>MC「しっかりと訓練し、備えることが重要なんです。」</p> <p>MC「札幌市では、水害ハザードマップを平成30年に改定しました。総務企画課長に伺いますが、災害に備え、ハザードマップによりご自宅の災害リスクをあらかじめ確認しておくことは非常に重要ですが、その他に準備しておくことなどはありますか？」</p> <p>解説者(総務企画課長)「自宅近くの避難所を確認しておくことも重要ですが、自宅が頑丈な建物の高層階などで安全だと判断できる災害の時は、自宅に留まる「在宅避難」も検討してください。また、安全な親せきや知人の家といった避難所以外への避難も選択肢の一つです。状況に応じた避難の方法を前もって検討しておきましょう。</p> <p>また、安全な場所に早目に避難することも重要です。最近の災害では避難の判断時期が生死に関わった事例も数多く聞きます。余裕を持った避難、ひどくなってからの避難、逃げ遅れた場合などのケースについて具体的に考えておくことが大切です。</p> <p>風水害の危険が迫ってきたら、札幌市からは危険度に応じて4段階に分かれた避難に関する情報を発令します。中でも、「避難勧告」や「避難指示」が出た時点では速やかに避難すること、ご高齢の方や体が不自由な方など避難に時間がかかる方々は、これより一段階前の「避難準備・高齢者等避難開始」で避難すること、これらについてしっかりと理解してください。」</p> <p>MC「ケースバイケースということですね。近くの避難所に行くことだけが正しい選択とは限らない、ということが良く分かりました。あらかじめ災害時の対応をイメージしておくことが重要であると感じました。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
13:15	<p>現地合同調整所訓練 (映像1回目) ～LIVE映像～ 消防車両の出動状況 ↓ 通報者からの情報収集 ↓ 現地合同調整所設置</p>	<p>MC「太平百合が原連合町内会の住民により資機材を使った救出活動が続けられておりますが、羽生(はにゅう)さん、この訓練で大切なことはなんですか？」</p> <p>解説者「町内会による定期的な自主防災訓練の実施がとても大切です。自主防災資機材の中には‘のこぎり’や‘ダルマジャッキ’など、いざという時に使える資機材が保管されています。太平百合が原連合町内会の方々のように、住民同士で助け合う‘共助’が大きな災害のときには特に重要と言えます。そのためにも訓練の機会を通じて顔の見える関係を構築することも大切だと思います。」</p> <p>MC「そのとおりですよね。」</p> <p>MC「会場をご覧ください。先ほどの北海道防災ヘリコプターからの情報と119番通報の情報に基づき、消防隊が出動したようです。現場ではどのような活動が始まるのでしょうか？」</p> <p>解説者「はい、まずは現場の状況把握から始まります。そして、速やかに救助活動を開始します。また、特に、こういった自然災害での活動は、二次災害発生の危険性が隣り合わせにありますので、安全管理についても、常に意識しなくてはなりません。助けが必要な方が大勢いる場合には、応急救護所を設置します。さらに、災害規模が大きければ、他の機関にも応援要請を行いながら、総合的に判断し、救出活動を展開していきます。」</p> <p>MC「これから、現場の指揮本部が立ち上がり、救助活動が開始され、さらに、応急救護所が設置され、応援要請がなされる。これらが同時並行して展開されていくということですね。」</p> <p>解説者「そのとおりです。」</p>	
13:17	<p>溺水者救出訓練 (泳いで救出) ～LIVE映像～ 「ドローン操作・情報収集・捜索運用検証」 ドローン協会ドローン飛行映像</p>	<p>MC「皆さま、大型モニターをご覧ください。現在、茨戸川訓練会場では北海道ドローン協会のドローンが上空から茨戸川で発生している溺水者救出現場の映像を伝送しています。</p> <p>本日の札幌市総合防災訓練では、札幌市消防局、陸上自衛隊、北海道ドローン協会の3機関のドローンを活用し、情報収集や捜索など映像伝送の運用検証を行っております。</p> <p>なお、今回の訓練ではドローン離発着場所の風速が毎秒5m以上となった場合は飛行中止の基準を設けております。」</p> <p>《溺水者救出の様子》</p>	
13:18	<p>ドローン協会ドローン撮影映像</p>	<p>MC「いち早く現場に到着した札幌市東消防署水難救助隊が、川で溺れていた2名の住民を救出しました。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
13:20	<p>水害孤立住民救出訓練 ～LIVE映像～ 石狩指揮車の様子 ↓ 石狩指揮隊の活動 《音声》 無線交信から拾う</p>	<p>MC「水害により孤立した住民の救出活動が始まるようです。」</p> <p>石狩指揮「訓練、石狩指揮から現地合同調整所。茨戸川水難現場に指揮本部設置。石狩指揮、指揮本部運用開始。どうぞ。」</p> <p>現地合同調整所「現地合同調整所、了解。」</p> <p>石狩指揮「訓練、茨戸川指揮本部から現地合同調整所。茨戸川の外水氾濫により、複数の住宅において1階部分が浸水しているのを確認。計8名の住民が取り残されているのを確認した。白石水難救助消防隊及び石狩ポート隊により救出する。なお、8名のうち2名は車椅子の要配慮者の模様。どうぞ。」</p> <p>現地合同調整所「現地合同調整所、了解。」</p>	
13:21	<p>～LIVE映像～ 石狩指揮隊の活動</p>	<p>MC「石狩消防署の指揮隊が活動を開始していますが、札幌市の災害に石狩市の消防部隊が応援にくることもあるのでしょうか？」</p> <p>解説者「はい、他の市町村の消防部隊が応援に来ることもありますし、札幌市の部隊が応援に行くこともあります。消防組織法という法律に基づき、北海道内全ての消防本部同士で応援協定を締結しております。災害の規模に応じて、近隣市町村や道央地区の市町村から、若しくは、北海道全域からの応援態勢を構築しております。さらに大規模な災害の場合は、全国の都道府県から緊急消防援助隊という消防部隊が、応援に来る仕組みとなっております。東日本大震災では札幌市消防局から緊急消防援助隊として442名の職員が被災地に派遣されましたし、先の胆振東部地震の際にも、札幌市消防局から210名の職員が派遣されました。」</p> <p>MC「そのような体制で災害に備えているとは知りませんでした。とても心強いですね。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
13:22	<p>～LIVE映像～ 茨戸川上のボートを バックにレポーター</p>	<p>MC「それでは現地から、北消防署警防課消防一担当課長の大村さん、よろしくお願いいたします。」</p> <p>レポーター「はい、大村です。こちらでは、現在、白石水難救助隊が高機能救命ボートで取り残された住民の救出活動中です。</p> <p>このボートは、近年頻発する風水害に伴う浸水被害などで逃げ遅れた方の救助活動を迅速に行えるように、今年4月に総務省消防庁から無償貸与されたものです。</p> <p>瓦礫等がある場面でも活動可能であり、最大積載量は約2,000キログラム、定員は20名のため多くの助けを求めている人を同時に救出することが可能です。」</p>	
13:23	<p>～LIVE映像～ 白石高機能ボートの 活動に寄る</p> <p>石狩ボートの 活動に寄る</p>	<p>レポーター「車椅子の方を高機能ボートに乗船させております。このボートは、船主のパネルが開閉する構造のため、水面から高低差のある岸壁等でも、人や機材の積み下ろしが簡単にできますし、車椅子ごと救助することも可能なため、支援が必要な方も迅速に救出することができます。」</p> <p>レポーター「逃げ遅れた方の乗船が完了し、これから、安全な場所への移動が開始されるようです。茨戸川の現場からは以上です。」</p>	
13:24	<p>～LIVE映像～ カメラ引き ボート二艘を捉える 《音声》 無線交信から拾う</p>	<p>石狩指揮「訓練、茨戸川指揮本部から現地合同調整所。孤立していた住民8名、乗船完了。これより陸上に向けて救出開始。どうぞ。」</p> <p>現地合同調整所「現地合同調整所、了解。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
13:25	<p>ドローン操作・情報収集・捜索運用検証</p> <p>～LIVE映像～ 飛行中の 消防局ドローンを撮影</p>	<p>MC「皆さま、会场上空をご覧ください。現在、飛行しているのは札幌市消防局のドローンで、水害車両現場の上空から、救助が必要な住民の捜索・情報収集を行っております。</p> <p>各機関は、災害現場などでヘリコプターが飛べない環境においても、早期に偵察や情報収集を行い災害の全体像を把握することで、速やかに災害対応に着手することを目的としてドローンを導入しております。</p> <p>札幌市消防局では、平成31年に総務省消防庁からドローンの無償使用を受け、運用に向けた検証を経て、本年4月から暫定運用を開始し、10月からは正式運用に移行する予定です。</p> <p>ドローンの機動力や積載している赤外線カメラにより、山岳での遭難や河川での水難事故における捜索、また、林野火災などでの上空からの情報収集など、様々な災害現場における活用が期待できます。」</p>	
13:26	<p>～LIVE映像～ 消防局ドローンの 赤外線カメラ映像</p>	<p>MC「只今、大型モニターには、札幌市消防局ドローンが備えている赤外線カメラの映像が映し出されています。温度により映像の色が変化することから、山や川での遭難など、通常のカメラ映像では視認性の低い環境化においても温度差で人の姿をとらえることができます。」</p> <p>MC「実際に、赤外線カメラの映像を見ると、通常のカメラとは全く違った見え方になることが分かります。本日は、ドローンの運用検証を含めた訓練とのことですが、災害での活動に対するドローンの今後の可能性はいかがでしょうか。」</p> <p>解説者「はい、救助が必要な方のいる場所を、早期に把握することは、人命救助において非常に重要なことです。場所が特定されれば、捜索活動から、実際に救出活動へと移行できます。ドローンにより上空から広範囲に渡って捜索を行ったり、赤外線カメラにより、体温を鮮明に捉えられることは、早期救出のためには、非常に有効であると考えます。</p> <p>また、救助が必要な方の捜索以外にも、例えば、土砂崩れで道路が寸断されてしまい人が入ることができず、状況を把握できないような場合においても、ドローンであれば上空からの情報収集により、早期に被害の全容を把握することができます。</p> <p>このように、活用の可能性は多岐にわたっており、ドローン自体の性能も日々進化していることを考えると、今後、災害対応における効果的なツールの一つになると思います。」</p> <p>MC「今後、災害現場でもドローンの活躍する機会が増えそうですね。」</p> <p>MC「これより先は、会場内を自由に移動して、訓練をご覧ください。安全のため、コーンバーで規制されているエリアには、立ち入らないようご協力ください。</p> <p>なお、引き続き、大型モニターでも映像配信されますので、そちらをご覧ください。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
13:28	<p>水害車両救出訓練 ～LIVE映像～ 最初現場のみ撮影 ↓ 引きでリポーター カットイン ↓ 救出活動隊に寄る</p> <p>※必要に応じて ドローン映像に 切り替え</p>	<p>MC「会場では、水害による土砂や流木に押し流された車両からの救出活動が始まったようです。現地から、北消防署警防課消防二担当課長の篠澤さんに解説していただきます。よろしくお願いいたします。」</p> <p>リポーター「災害現場から送ります。こちらの現場では、マイクロバスを含む車両複数台が土砂や流木に押し流され、車両が横転するなどして、車内に多数の負傷者が取り残されています。</p> <p>このように、負傷者が多くいることが予想されるときは、災害形態や災害規模の把握が非常に重要となりますので、初めに、負傷者がどれほどいるか、二次災害発生の危険性の有無等の情報を集めます。</p> <p>次に、救出活動ですが、まず、車両に近づくために、周囲にある流木や土砂を撤去することが必要です。</p> <p>さらに、土砂や流木の衝突で車両が変形し、ドアが開かなくなったり座席シートとハンドルの上に挟まれたりして、直ちに救出することが難しい場合があります。</p> <p>救出する際は、大型油圧救助器具等の救助資機材を使用して、車体を切断、破壊しながら救出活動を行います。」</p>	
13:30	<p>流木・土砂撤去訓練 〈映像1回目〉 ～LIVE映像～ 北海道開発局 無人災害調査車</p>	<p>MC「皆さま、会場中央の土砂・流木付近をご覧ください。」</p> <p>MC「河川の氾濫による流木・土砂等に押し流された複数の家屋及び車両の救出活動を行っている消防部隊から、流木・土砂等に阻まれてアクセスできない倒壊家屋があることが現地合同調整所に報告されたようです。報告を受けた調整所では災害時の協定を結んでいる関係機関に連絡し、流木・土砂の撤去について協力を依頼したようです。」</p> <p>MC「まずは北海道開発局からの派遣要請を受けて無人災害調査車が到達し、活動を開始しております。無人災害調査車とは移動操作車と調査車からなり、移動操作車からの無線通信、GPS、調査用カメラを活用し、土砂災害現場等での遠隔での応急作業等を対応目的としております。二次災害の危険がある場所においても活動が可能で、例えば火山噴火に伴う危険区域内での無人化作業や二次災害の危険がある土砂崩れの現場などでも対応できます。」</p> <p>MC「こちらの車両は、国土交通省の緊急災害対応派遣隊、いわゆるTEC-FORCE(テックフォース)の車両として運用されております。TEC-FORCE(テックフォース)とは、大規模災害が発生した際に、現場にかけつけ川や道路の被害を調べたり、壊れた場所を復旧する国土交通省のチームのことで、この車両のように救助隊や支援物資が通れるように道路の土砂や瓦礫を取り除いたりする車両以外にも、あふれた水を排水するポンプ車や夜の現場を明るく照らす照明車、ヘリコプターやドローンもあります。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
13:33	<p>応急救護所設置・ 負傷者トリアージ 訓練 ～LIVE映像～ 水害車両救出訓練か ら要救助者を 搬送している映像 ↓ リポーターと 応急救護所を引きで</p>	<p>MC「皆さま、大型モニターをご覧ください。」</p> <p>MC「車両から救出された負傷者が応急救護所に搬送されています。応急救護所では何が行われるのでしょうか？現場の篠澤さん、お願いします。」</p> <p>リポーター「大規模な災害現場では、多数の負傷者がいる場合、応急救護所を設置して、救急救命士と消防隊が協力し、トリアージと応急処置を実施します。</p> <p>ここでいうトリアージとは、大規模な災害が発生し、多数の負傷者が発生した場合において、負傷者の緊急度と重症度を確認し、限られた医療資源を最大限に有効活用するため、傷病者の負傷程度に応じて優先順位を決定していくことです。</p> <p>トリアージに使用するタグに記載された内容は、適切な治療を受けるための重要な情報であり被災地内の医療機関においては、簡易カルテとして使用します。</p> <p>また、それぞれの病院が、受入れることができる負傷者人数や傷病程度別人数をよりの確に把握することができます。</p> <p>タグの色は、4色に分けられており、専門医の治療を必要としない人は『緑色』、多少治療の時間が遅れても生命の危険がない人は『黄色』、直ちに処置を行えば救命が可能な人は『赤色』、治療を行っても明らかに救命が不可能な人は『黒色』となります。」</p>	
13:35	<p>～LIVE映像～ 応急救護所内 外国人要救助者による ↓ 負傷者と救急救命士の 会話を撮影 ↓</p>	<p>MC「負傷者の中に外国人の方がいるようです。日本語がわからない方への対応はどうするのでしょうか？実際の対応方法を大型モニターをご覧ください。」</p> <p>《撮影しているやりとりの音声を流す》約1分</p> <p>MC「今のはどういった対応でしょうか？現地の篠澤さんお願いします。」</p>	
13:37	<p>《音声》 リポーターへ切替</p>	<p>リポーター「ご覧いただいているのは、翻訳アプリケーション『VOICE TRA』（ボイストラ）を利用した外国人負傷者とのコミュニケーションです。</p> <p>このアプリケーションは、31の言語に対応しており、会話の翻訳機能はもちろん、専門的な救急用語にも定型文として登録されており、負傷した外国人の方を適切に観察するために有用なツールとして活用しております。</p> <p>『VOICE TRA』（ボイストラ）は、救急車に積載しているタブレットの一つのアプリケーションであり、札幌市消防局全ての救急車が備えています。以上です。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
13:38	現地合同調整所訓練 (2回目) ～LIVE映像～ 現地合同調整所を現場バックに引き気味	<p>MC「水害現場近くに陸上自衛隊、北海道警察、北消防署により現地合同調整所が設置されています。現地合同調整所とはどのような役割なのですか？」</p> <p>解説者「はい、現地合同調整所では、現場に到着した関係機関が、それぞれ収集した最新の情報を共有し、現場で活動する各機関の隊員へ、フィードバックします。そうすることで、救助が必要な方の、早期救出と活動隊員の安全に繋げることが可能となります。」</p>	
13:39	～LIVE映像～ 現地合同調整所より	<p>MC「それでは、実際に合同調整所でのやり取りを見てみましょう。」</p> <p style="text-align: center;">《現地合同調整所のやりとり音声を流す》</p> <p>MC「今のはどのような内容の話でしょうか？現地の篠澤さんお願いします。」</p>	
13:41	↓ カメラ引き 現地合同調整所バックにリポーター	<p>リポーター「各機関の活動隊員から集約した情報を出し合い、今後の救出方針について話し合っています。自衛隊、警察、消防が活動する範囲が決定され、それぞれの指揮者が、各活動隊に指示をしております。」</p> <p style="text-align: center;">——直前の調整所内でのやりとりに応じアドリブ対応可能—— (最大1:30の時間あり)</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
13:43	<p data-bbox="211 213 401 354">土のう積み訓練 ～LIVE映像～ 土のう積み訓練 会場全体の画</p> <p data-bbox="211 399 401 468">積み土のう工法 会場の画</p> <p data-bbox="187 513 429 613">工法の画と団員の活 動 をズームで</p> <p data-bbox="219 1255 396 1355">～LIVE映像～ 月の輪工法 会場の画</p>	<p data-bbox="448 213 1229 319">MC「皆さま、会場の大型モニターをご覧ください。北消防団と北区災害防止協力が救助現場への浸水を防止するため、土のう工法を実施しております。会場に向かって左手奥で実施しております。」</p> <p data-bbox="448 364 1200 391">MC「北消防団により、‘積み土のう工法’が実施されております。」</p> <p data-bbox="448 437 1236 542">MC「消防団とは、本業を持ちながら非常勤の公務員として‘自分たちのまちは自分たちで守る’という郷土愛精神に基づき、地域の安全と安心を守るために活動しています。</p> <p data-bbox="448 547 1236 615">本日訓練を実施している札幌市北消防団は、本部及び11分団で構成され、渡邊団長以下団員が計255名所属しております。</p> <p data-bbox="448 621 1236 764">消防団はその地域密着性、動員力、災害即応能力という点において地域防災力の要と言っても過言ではなく、阪神・淡路大震災や東日本大震災においても、消火活動、救助が必要な方の検索、救助活動、給水活動、危険箇所の警戒活動など、幅広い活動に従事しました。</p> <p data-bbox="448 770 1236 876">特に、日頃の地域に密着した活動の経験を活かして、倒壊家屋から数多くの人々を救出するなど、その役割の重要性が改めて認識されております。</p> <p data-bbox="448 882 1236 988">しかしながら、近年は高齢化などから団員数が減少傾向にあるため、消防団の活動維持に向けた取り組み、特に消防団員の確保は全国的に切実な課題とされています。</p> <p data-bbox="448 994 1236 1172">性別を問わず本訓練をご覧になったみなさまのなかに消防団員として力を発揮したい、もしくはどのような活動をしているのか興味を持たれた方がいらっしゃいましたら、お近くの消防署にお問合せまたは札幌市消防局のHPをご覧くださいなどしていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。」</p> <p data-bbox="448 1218 1236 1286">MC「隣では、北区災害防止協力が‘月の輪工法’による土のう積みを実施されております。</p> <p data-bbox="448 1292 1236 1361">月の輪工法とは、大雨による増水で堤防から漏水があった場合に、漏水口の拡大を防ぎ堤防の決壊を防止する水防工法の一つです。」</p> <p data-bbox="448 1406 1236 1618">MC「北区災害防止協力は、北区内で災害・事故が発生、または、発生する恐れがある場合に、道路、河川などの公共土木施設の被害調査や応急復旧対応などを行うために組織された団体で、札幌市北区と締結している災害時の協力体制に関する協定に基づき、被害の拡大防止と被災施設の早期復旧を目的に、札幌市と連携して活動しております。</p> <p data-bbox="448 1624 1236 1692">北区民の生命や財産を守るため、現在は72社の企業により構成されております。</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
13:48	<p>ドローン操作・情報 収集・捜索運用検証 ～LIVE映像～ 自衛隊ドローン撮影</p> <p>自衛隊ドローン映像 を流す</p>	<p>MC「皆さま、陸上会场上空をご覧ください。現在、飛行しているのは陸上自衛隊のドローンで、流木・土砂撤去現場の上空偵察、情報収集を行っております。</p> <p>陸上自衛隊 第18普通科連隊では、5月に発生した恵山(えさん)での山岳遭難現場で捜索を行った実績があります。</p> <p>今回参加機関の中では、最も小型軽量かつコンパクトで持ち運びが容易な機種であります。」</p> <p>MC「今、大型モニターに映しております映像は、陸上自衛隊のドローンが撮影している映像です。訓練会场上空を飛行し、各訓練の状況を情報収集しております。」</p> <p>MC「現在撮影しているのは、応急救護所の状況です。上空から見ると、トリアージポストの様子や、負傷者が応急救護を受けている様子がよく確認できます。」</p> <p>MC「続いて、流木・土砂撤去訓練の様子を映し出しております。大型の重機が活動中ですが、撤去の必要がある流木・土砂の範囲が一目瞭然ですね。また、活動の進み具合も手に取るようにわかります。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
13:51	<p>水害車両救出訓練 (映像2回目) ～LIVE映像～ 自衛隊ドローン映像 を引き続き流す ↓ 会場カメラで 水害車両をバックに リポーター ↓ 北高度救助隊の活動 に寄る</p>	<p>MC「現在、陸上自衛隊ドローンが水害車両救出訓練の様子を撮影しております。北消防署の高度救助隊が、車両の周囲から流木と土砂をよけ、車両内の負傷者を救出しようとしています。どのような方法で救出活動がおこなわれるのでしょうか？現場の篠澤さん、解説をお願いいたします。」</p> <p>リポーター「はい、篠澤です。現場からお送りします。現在、北消防署高度救助隊が活動している車両には、運転席に閉じ込められた負傷者1名が救出を待っている状況です。 先ほどまで、車両周囲に堆積していた大量の流木と土砂を除去し、救出活動のためのスペースを確保していました。 必要なスペースを確保し、救助隊員が負傷者の状況を詳しく確認したところ、負傷者は、車が変形してしまったことから、体の一部が挟まれており、さらに、ドアも変形して開けることができない、という状況のようです。」</p> <p>MC「なるほど。救出が非常に難しそうな状況ですが、どのような方法で救助するのでしょうか？」</p> <p>リポーター「先ほども少しお話ししましたが、大型油圧救助器具が活躍します。これは、つぶれた車両の隙間を広げたり、反対に押しつぶすことが可能な『スプレッダー』や、車のボディを切断するための『カッター』を備えており、今回のような状況にある救出活動に威力を発揮します。 この訓練では、ドアが変形して開かないことや、車の周りの流木や土砂を完全に取り除くと時間がかかりすぎてしまうことから、迅速、確実な方法として、車両の一部を『オープンカット』する方法を救助隊が選択したようです。」</p> <p>MC「それは、具体的にどのような方法なのでしょうか？」</p> <p>リポーター「はい。車両の前側、フロントガラス部分から屋根部分にかけて大きく開く方法です。 これにより、救出するための広いスペースを確保することができ、迅速な救出活動につながります。以上です。」</p> <p>MC「篠澤さん、ありがとうございました。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
13.56	<p data-bbox="201 203 415 420">地域住民体験コーナー 車両展示コーナー ～LIVE映像～ 体験コーナーの映像を流す</p> <p data-bbox="229 464 386 495">給水車を映す</p> <p data-bbox="191 650 422 718">大型ポンプ車とホース延長車を映す</p> <p data-bbox="191 1058 422 1127">水素自動車と電気自動車の映像を流す</p> <p data-bbox="191 1394 422 1425">車中泊体験車を流す</p> <p data-bbox="201 1618 415 1686">無人災害調査車と移動操作車を映す</p>	<p data-bbox="451 203 1218 271">MC「こちらでは参加された地域住民の方が防災関係車両展示を見学し、流水体験装置を体験しております。</p> <p data-bbox="451 314 1218 383">この流水体験コーナーでは、わずかな量の水でも、冠水した道路を歩く大変さや怖さを体感することができます。</p> <p data-bbox="451 389 1232 567">その隣の車両は給水車です。札幌市水道局では、水道水を運ぶための給水タンク車を5台所有しています。1台に3,000ℓの水道水を積むことができ、加圧ポンプと給水用ホースが装備されており、病院や福祉施設などの受水槽や、車両が侵入できない狭い場所などにも応急給水が可能です。</p> <p data-bbox="451 650 1232 975">次に防災車両の展示として札幌市消防局の大型ポンプ車とホース延長車です。この2台の車両は、2台セットで消火用水大量補給用車両として運用されます。消火用水大量補給用車両は、消防水利の寸断や道路障害等の消防活動障害が予想される大規模震災時における延焼拡大火災や大量の消火用水を必要とするコンビナート火災等に対処するため、遠方の河川、湖、海等の巨大水源から災害現場直近に大量送水し、効果的な消防活動を支援することを目的とした車両となります。また、洪水時には排水活動も可能で、毎分最大で5,000ℓの排水能力を有しております。</p> <p data-bbox="451 1058 1232 1311">次に電気や水素を動力源とする次世代自動車による非常時給電機能を体験できるコーナーです。札幌市が保有する燃料電池自動車「ミライ」の展示や、災害時の協定に基づき市内自動車販売店さまから貸与される次世代自動車として、今回は北海道日産自動車さまの御協力で電気自動車「リーフ」による給電実演を実施頂いております。車両の仕様によっては一般家庭2～4日分の給電機能があり、停電時の避難所等での活躍が期待されています。</p> <p data-bbox="451 1394 1218 1535">次に車中泊を体験できる車両もご用意しました。小さな車でもちょっとした工夫で車中泊が可能なスペースを作ることができます。車中泊時の注意点については北海道災害リハビリテーション推進協議会さまにもご協力を頂きました。</p> <p data-bbox="451 1618 1232 1796">最後に北海道開発局札幌開発建設部からは無人災害調査車と移動操作車です。先ほどの流木・土砂撤去訓練時に活動していた車両を展示しております。 流水体験のほか8台を展示しておりますので是非この機会にご覧ください。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
	<p data-bbox="207 203 406 269">だるまジャッキの 使い方</p> <p data-bbox="207 828 406 870">土のうの作り方</p>	<p data-bbox="449 203 1228 341">MC「ではここで、さきほど地域住民共助訓練の中でも使用しておりました、だるまジャッキの使い方について、北消防署の上村さんに詳しく解説していただきたいと思います。上村さんよろしくお願ひします。」</p> <p data-bbox="449 383 1235 704"> 解説者「だるまジャッキの取扱いについて説明します。 まずリリーススクリュウを操作レバーの先端で締め付けます。 次に持ち上げる重量物にだるまジャッキを設定します。その際に、だるまジャッキと重量物に間隔が多くある場合は、土台となるようなものを利用してください。 だるまジャッキを設定する時は、手を挟めないよう注意して設定してください。 レバーソケットに操作レバーを差し込み、操作レバー上下に動かします。 以上でだるまジャッキの取扱い説明を終わります。」 </p> <p data-bbox="449 818 1235 963">MC「さきほど、北消防団、北区災害防止協力が土のう積み訓練を実施していましたが、万一、自宅で水をせき止めるなど土のうが必要になった時の作り方について、詳しく解説をいただきたいと思ひます。北消防署の江田さんよろしくお願ひします。」</p> <p data-bbox="449 1004 1242 1709"> 解説者「水害発生時には早めの避難が重要ですが、自宅玄関などへの浸水を防ぐために、土のうの使用方も覚えておきましょう。 まずは作成方法です。 土のう袋はホームセンターなどに売っています。また中に入れる砂は、川砂という公園の砂場にあるような砂を使用します。 土のう袋は、一般的に縫い目が外側に出ている状態で売られていますので、使用時には裏返して縫い目を内側にして使用してください。 次に入れる砂の量ですが、おおよそ袋の7分目程度が目安です。 砂を入れたら、袋の口をしぼり、紐を縛ります。 紐の縛り方は、上からこのような形で、袋の口を持ち、紐を2～3回まわし、親指でできた隙間に上から紐を通します。 最後に親指を抜き、紐を下にひいて締めれば完成です。 次に土のうの積み方ですが、積み方は隙間ができないように、横に並べておいていきます。 その際、手前の土のうに少し重ねるように並べることで隙間を減らすことができます。 また、高さを出すために2段目以上を積み場合には、下に置いた土のうと土のうの隙間に積んでいきます。 以上で土のうの使用法についての説明を終わります。 このように土のうを玄関前に積んでおくことで簡易的に浸水を防ぐことも可能になりますので、ぜひ覚えておいてください。」 </p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
14:00	<p>流木・土砂撤去訓練 〈映像2回目〉</p>	<p>MC「皆さま、会場の大型モニターをご覧ください。先ほどの流木・土砂撤去現場ですが、北海道開発局の無人調査車に代わり、北区災害防止協会の重機が活動しています。小型の重機では持ち上げられなかった大きな流木や土砂を撤去しています。」</p> <p>MC「札幌市からの要請を受け、バックホーとタイヤショベルの2台の重機が作業に当たっております。北区災害防止協会は昭和52年に発足しており、昭和56年の【56災害】での復旧対応や、近年では平成30年の胆振東部地震でも復旧作業に従事されており、災害時にはいち早く被災現場に駆けつけて、早期復旧に尽力を尽くされています。」</p>	
14:03	<p>現地合同調整所訓練 〈映像3回目〉 ～LIVE映像～ 現地合同調整所を撮影《音声》 調整所の様子を流す</p>	<p>MC「現地合同調整所では、流木・土砂撤去に目途が立ち、倒壊した家屋に取り残された方々の救出について話し合われているようです。」</p> <p>《現地合同調整所の状況を流す》</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
14:05	<p>水害家屋救出訓練 ～LIVE映像～ 倒壊家屋に向かう 自衛隊、警察を引き で ↓ リポーターカットイン ↓ 災害救助犬に寄る</p>	<p>MC「流木や土砂によって倒壊した家屋で、陸上自衛隊と北海道警察による負傷者の救出活動が始まったようです。現地の篠澤さんに解説してもらいましょう。篠澤さん、お願いします。」</p> <p>リポーター「はい。現在、北海道警察の災害救助犬による負傷者の生体反応の有無についてサーチング活動を実施し、倒壊した家屋内に取り残された方のおおよその位置などを予測し、救出活動にあたります。また、周囲の土砂や流木の下に救助が必要な人がいないかどうか確認しています。</p> <p>陸上自衛隊が半倒壊家屋の活動にあたっています。また、北海道警察は全倒壊建物の活動にあたっています。</p> <p>これらの救出活動にあたって対応部隊をどうするか？を、あらかじめ現地合同調整所で定めておりました。</p> <p>これにより、重機で流木が撤去されたのち、速やかに救出活動に移行できています。」</p>	
14:08	<p>半倒壊建物に寄る</p>	<p>リポーター「陸上自衛隊が活動している半倒壊家屋の周囲に流木があり、建物内に入ることができないことから撤去作業が行われています。このように、水害時には河川などに流れ出た大量の流木による被害も発生し、行方のわからない方々の救助活動を大きく妨げる要因となります。」</p> <p>リポーター/～自衛隊の活動内容に応じて解説～</p>	
14:10	<p>全倒壊建物に寄る</p>	<p>リポーター「こちらの全倒壊家屋では、土砂や流木の影響で、建物の周囲から内部に入ることができないため、北海道警察の隊員により、屋根から進入するための入口をチェーンソーで開けております。</p> <p>その入口の穴をあける際には、救助が必要な方を傷つけることがないような位置を選定しています。</p> <p>チェーンソーによる穴が開いた後は、隊員が内部に進入し、救出活動を開始します。」</p> <p>リポーター/～警察の活動内容に応じて解説～</p> <p>MC「本格的な救出訓練が継続して行われているようですね。」</p> <p>MC「これより先は、茨戸川での水難救助訓練が再開されます。大型モニターにて映像配信されますので、ぜひ席にお戻りいただき、大型モニターにて訓練をご覧ください。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
14:15	ドローン操作・情報 収集・搜索運用検証 ～LIVE映像～ 協会ドローン映像 を流す	<p>MC「皆さま、大型モニターをご覧ください。現在、茨戸川会場では北海道ドローン協会加入の株式会社KOO(クー)のドローンが上空から茨戸川で発生している溺水者救出現場の映像を伝送しています。バッテリーを交換して、2回目の飛行となります。</p> <p>北海道ドローン協会は、ドローンの普及に伴い北海道内におけるドローンの安全活用を推進するために平成29年に設立し、ドローンの安全普及啓発・計測技術の技術研鑽・寒冷地対応の研究・練習場の運営などの活動をしております。</p> <p>現在飛行しているドローンは、360度カメラを搭載しております。操縦モニターでは通常カメラと360度カメラの切り替えが可能です。360度カメラは、全周360度を撮影できますので、状況をもれなく上空から記録することが可能です。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
14:17	<p>溺水者救出訓練 (ボート・潜水救出) ～LIVE映像～ 水難救助隊ボートを撮影 ↓ 茨戸川バックリ リポーターカットイン ※必要に応じてド ローン映像に切替え</p>	<p>MC「茨戸川で発生した溺れている人の救出には、石狩消防署のボート隊、札幌市の白石と東の水難救助隊が協力してあたるようです。茨戸川会場の大村さんに詳しく聞いてみましょう。大村さん、お願いします。」</p> <p>リポーター「はい大村です。現在、各水難救助隊がボートで救助が必要な方の救出に向かっています。今まさに、溺れている人を石狩水難救助隊のボートの上に救出しております。</p> <p>救出された人からの情報によると、どうやら、1名の方が水中に沈んでしまったとのこと。このため、東水難救助隊が川の中に潜水し、水に沈んでしまった人の検索にあたります。」</p>	
14:20	<p>～映像切替～ 環状検索訓練風景 ↓ ～LIVE映像～ 東水難救助隊に寄る ↓ 水上に浮上しているところを撮影 ※必要に応じてド ローン映像に切替え</p>	<p>リポーター「東水難救助隊が潜水を開始します。水に沈んでしまった人の水中の検索には『環状検索』という方法を用いています。まず、大型モニターに訓練風景の映像を流しますのでご覧ください。」</p> <p>リポーター「これは、水上の浮きの下に『沈錘(ちんすい)』と呼ばれるおもりを沈め、その間に垂直に張ったロープを中心にして、潜水隊員が環を描くように水に沈んでしまった人を検索する方法です。1度で発見できない場合は、おもりの場所を変えて繰り返し実施します。</p> <p>只今、水に沈んでしまった人を発見し、潜水隊員が水上に浮上してきました。</p> <p>これから、水に沈んでしまった人を水上から船上に救出するのですが、準備しているオレンジ色の網(あみ)のようなものは『リカバリーシステム』といいます。これは、より少ない力で水上から船上に溺れてしまった人を引き上げることができます。また、隊員が船上に戻る際に手や足をかけて船上に戻る際にも使用できます。」</p>	
14:24	<p>～LIVE映像～ 川岸から要救助者を撮影</p>	<p>MC「救出された住民からの情報で、茨戸川上には他にもまだ助けを求めている人がいるとのこと。茨戸川の指揮本部からヘリコプターの出動が要請されました。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
14:25	<p data-bbox="211 203 405 343"> 溺水者救出訓練 (ヘリコプター ホイスト救出) ～LIVE映像～ </p> <p data-bbox="191 352 425 422"> 水難救助会場カメラ からヘリを映す。 </p> <p data-bbox="217 464 399 534"> 《LIVE音源》 札消ヘリと本部 </p> <p data-bbox="217 907 399 977"> 《LIVE音源》 札消ヘリと本部 </p> <p data-bbox="217 1686 399 1757"> 《LIVE音源》 札消ヘリと本部 </p>	<p data-bbox="448 203 1229 310"> MC「会場のみなさま、訓練会場から茨戸川方面の上空をご覧ください。現場では、川での溺水者を捜索するため、札幌市消防局航空隊を要請し、現場上空にヘリコプターが到着したようです。」 </p> <p data-bbox="448 352 1210 422"> 札消ヘリ「札消ヘリ3から北区災害対策本部、茨戸川上空に到着。これより捜索活動を開始する。どうぞ」 </p> <p data-bbox="448 464 1219 534"> 本部「北区災害対策本部から札消ヘリ3、茨戸川に1名の要救助者がいる模様、発見次第救出願う。どうぞ」 </p> <p data-bbox="448 576 1219 683"> MC「会場のみなさま。会場の大型モニターをご覧ください。茨戸川上空から札幌市消防局のヘリコプターが溺水者の捜索を行っているようです。」 </p> <p data-bbox="448 725 1219 832"> MC「札幌市消防航空隊は、平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震では、いち早く被災地に出動し13名の尊い命を救出しました。」 </p> <p data-bbox="448 874 1210 944"> 札消ヘリ「札消ヘリ3から北区災害対策本部、水上に要救助者1名を発見。これより隊員1名が降下し、ホイスト救出する。」 </p> <p data-bbox="448 986 822 1015"> 本部「北区災害対策本部、了解。」 </p> <p data-bbox="448 1056 1136 1085"> MC「羽生(はにゅう)さん、ホイスト救出とは何でしょうか？」 </p> <p data-bbox="448 1127 1229 1350"> 解説者「はい、ホイストとは、ケーブル先端にフックがついたウインチのことです。着陸ができない場合に、このホイスト装置を使用することで、助けを求めている方を、吊上げて救出することができます。ケーブルの長さは最大90mで吊り上げ能力は約300kgです。ヘリコプターの特性といえる、上空で静止できるホバリング能力を活かした救出方法です。」 </p> <p data-bbox="448 1392 1219 1462"> MC「報道番組などで、見たことがあります。ホイスト救出というのですね。」 </p> <p data-bbox="448 1504 1145 1533"> MC「引き続き、大型モニターにて救出活動をご覧ください。」 </p> <p data-bbox="711 1574 976 1603" style="text-align: center;"> 要救助者を機体へ収容 </p> <p data-bbox="448 1645 1225 1715"> 札消ヘリ「札消ヘリ3から北区災害対策本部、要救助者1名救出完了。これより基幹病院へ搬送開始。どうぞ。」 </p> <p data-bbox="448 1757 822 1786"> 本部「北区災害対策本部、了解。」 </p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
14:30	<p>現地合同調整所訓練 (映像4回目)</p> <p>屋外訓練終了</p>	<p style="text-align: center;">自衛隊、警察、消防の各指揮者の映像</p> <p>現地合同調整本所「現地合同調整所から北区災害対策本部」</p> <p>北区災害対策本部「北区災害対策本部です。どうぞ。」</p> <p>現地合同調整本所「訓練、現時点、水害車両及び家屋から21名、茨戸川から13名、合計34名、行方不明者全員の救出を完了。現地合同調整所、解散。どうぞ。」</p> <p>北区災害対策本部「了解。」</p> <p>MC「救助が必要な住民全員の救出が完了したようです。」</p> <p>MC「本日は、自衛隊、警察、消防の防災関係機関による迫力ある救出活動を目の前で見せていただくことができました。3機関のドローンの飛行も初めて見ることができましたし、ドローンから撮影した映像も鮮明に見ることができました。羽生(はにゅう)さん、最後に一言お願いいたします。」</p> <p>解説者「そうですね。今後も日々の訓練を通じて、災害対応能力を向上させることは当然として、本日の訓練のように自衛隊や警察などの防災関係機関と、より連携を一層強化して、市民の皆様の安全と安心に繋がるよう、努力して参ります。」</p> <p>MC「それは心強いです。近年、全国的に多発する風水害に対応する訓練として、ボート救出や潜水救出訓練も初めて見させていただきました。一連の訓練を見て、札幌市民として、とても頼もしく感じました。」</p> <p>解説者「ありがとうございます。本日の訓練を拝見いただき、防災に対する意識を、少しでも高めて頂くきっかけになれば、幸いです。」</p> <p>MC「羽生(はにゅう)警防課長、ありがとうございました。以上により、令和2年度札幌市総合防災訓練災害対応訓練を終了いたします。」</p> <p>MC「引き続き午後3時より、屋内訓練をガトーキングダムサッポロ1階大宴会場「カベルネ」にて行いますが、訓練の様子は大型モニターでも放映いたしますのでこのままご覧頂くことも可能です。移動される方は訓練開始までにご移動くださいますようお願いいたします。」</p> <p style="text-align: center;">屋外会場より屋内会場への移動 14:30~15:00</p> <p style="text-align: center;">※運営スタッフ・関係者は、参加者アテンド</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
14:55	影アナウンス 記録DVD映像撮影	<p style="text-align: center;">屋内訓練会場(ガトーキングダムサッポロ1階大宴会場「カベルネ」)</p> <p>MC「皆様、屋外訓練、会場移動大変お疲れ様でした。間もなく午後3時より屋内での避難所運営訓練を開始いたします。屋内訓練に先立ちまして、皆様へ再度ご協力をお願いを申し上げます。新型コロナウイルス感染症防止のため、運営スタッフの指示に従い、混雑を避け一定の距離を保つての、ご準備をお願いいたします。」</p> <p style="text-align: center;">実際に避難してきた時の流れをイメージし、まず前半30分は各訓練項目を説明しながらカメラ(youtubeライブ配信用)で追っていく。導入部の訓練開始説明と各ブースの説明は以下の通り MCと解説は席に着席したままで 下記原稿を指定した時間に読み始める。 カメラは指定時間に各ブースへ向かい、その様子を撮影。</p>	
15:00	避難所運営訓練 導入部	<p>MC「15時になりましたので、これより屋内訓練を開始いたします。こちらでは発災初期の避難所の開設・運営の訓練が行われることになっており、住民の方々が避難所に避難してきたという想定のもと、避難所の開設と運営の流れを、自らが運営する立場にもなって一緒に体験・確認して頂く内容となっています。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
15:02	1.検温	<p>MC「まずこちらでは最初に、避難されてきた住民の方々が受付前の検温を受けているようです。」</p> <p>解説者「避難所では、たくさんの方が集団で生活していくことになりますので、新型コロナウイルス感染症をはじめとした感染症のリスクを下げるための対策が不可欠です。そこで一番はじめに、受付手前において検温を行って体調不良がないか確認するとともに、受付前の手指消毒、マスク着用の徹底もお願いしています。ここで、検温で37.5度以上あることが分かった方や、体調不良の申し出があった方などには、臨時受付へ案内ののち、通常の滞在スペースとは別の部屋へ誘導いたします。なお、避難所を開設する前には、市の職員によりその施設が避難所として使用可能かどうかの確認いたします。問題がなければ避難されてきた方々の受付を開始しますので、落ち着いて指示を待ってください。」</p>	
15:05	2.受付・臨時受付 ・動線分け	<p>MC「検温を終えた一般避難者の方々が受付をしています。間隔をあけて並んでもらっていますね。受付ではどのようなことをしているのですか？」</p> <p>解説者「ここでも、感染症対策として2mを目安に間隔をあけて並んでもらいます。受付では避難されてきた人数を確認し、避難者名簿をお渡しして記入してもらいながら滞在スペースへ誘導しています。受付を見ていただくと緑色のベストを着た人とオレンジ色の別のベストを着た人がいるのがわかるかと思います。緑色のベストは市の職員ですが、オレンジ色のベストは今回参加いただいた地域住民の皆さんで、職員だけではなく一部の参加住民の方にもご協力頂いて対応しています。災害発生時は、市の職員だけで運営することには限界がありますので、こうして避難されてきた方々にご協力頂きながら避難所運営を進めていく必要があることをご理解ください。また、受付の混雑状況によっては、もっとお手伝いを必要とする可能性もあります。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
15:08	3.外国人等 対応訓練	<p>MC「受付に、どうやら日本語が分からない外国人の方が避難されてきたようです。どのような対応をしているのですか？」</p> <p>解説者「区役所で使っている翻訳用端末(ポケトーク)を活用するほか、電話を経由しての通訳などで対応します。また多言語支援センターから職員を派遣してもらい、避難所での生活ルール等を外国人に説明してもらうことなども想定しています。外国の方々とは言葉や文化の違いもあってなかなか難しい対応にはなりますが、こうした関係機関との連携・協力訓練を重ねて対応力の向上、体制構築を目指しています。」</p>	
15:15	4.滞在スペース 設置訓練 ・福祉避難 スペース設置訓練	<p>MC「検温・受付を終えて滞在スペースに入られた住民の方たちが作業をしているようですが何をしているのでしょうか？」</p> <p>解説者「一般の滞在スペースでは、感染症対策としてソーシャルディスタンスを保った区画割を行います。ここでも、職員だけですべての区画割を準備することが難しい場合もありますから、避難されてきた方々にも協力してもらい、それぞれで自らのスペースを作ってもらっています。スペースの目安は1世帯3人用で一区画3m×3mで、滞在スペースの間は2m、ないし最低でも1m以上の幅の通路を設けるようにしています。</p> <p>また、避難所内には、通常の避難スペースとは別に、「福祉避難スペース」を設置しています。福祉避難スペースは、体の不自由な方や妊娠中の方など一般の滞在スペースでは負担の大きい方々に使って頂く想定です。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
15:20	5.感染症室 設置訓練	<p>MC「こちらは新型コロナウイルス感染症をはじめとした感染症対策として設置される臨時受付や感染症室と伺っております。部屋が2つあるようですが、なぜでしょうか？」</p> <p>解説者「一番初めの検温において発熱や体調不良が確認された方は、他の方々とは別に臨時受付で受付したのち、通常の避難スペースと別の部屋、「感染症室」に案内します。例えば新型コロナウイルス感染症に関していえば、発熱や咳等の諸症状があってもそれが単なる風邪なのか新型コロナウイルスによるものかは分かりませんので、体調不良の傾向があるからといって全員を同じ部屋に集めてしまうと、かえって新型コロナへの感染が拡大する恐れもあります。そのため感染症室は新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者等専用と、それ以外の発熱・咳等の症状のある人専用の部屋を別々に用意するようにしています。また一般受付や一般の滞在スペースとの動線が重ならないようにする配慮が必要で、今回の訓練でも検温からの臨時受付、感染症室への誘導の流れを確認しています。」</p>	
15:25	6.通信手段の 確認訓練	<p>MC「避難所の開設と避難者の受付、滞在スペースの確保がひと段落したようですね。」</p> <p>解説者「避難所の対応が一区切りついた段階で、避難所から区の災害対策本部に避難所の様子を報告します。各学校には防災行政無線が備え付けられているのでそれを使います。防災行政無線は、携帯電話や固定電話が使えないときや停電時でも使えるようになっています。避難者の数や不足物品の有無、避難所の様子などを基本的には職員が報告しますが、今回は地域住民の方にも体験してもらおうと本部への報告をお願いしています。」</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
15:30	<p>7.実技訓練</p> <p>～LIVE映像～ 展示コーナー前で一旦カメラを固定準備ができ次第各展示コーナーからの説明を中継</p> <p>《インタビュー》 MC各ブース周回</p>	<p>MC「実技訓練・・・とありますが、ここでは何をしているのでしょうか？」</p> <p>解説者「こちらでは基幹避難所である小学校や中学校に備蓄されている簡易トイレやダンボールベッドの組立や使い方などを体験しています。」</p> <p>MCインタビュー① 「ここはどんな展示コーナーですか？」</p> <p>MCインタビュー② 「防災の心がけとしてどんなことをしたらいいですか？」</p>	
15:35	<p>8.防災用品の展示等</p> <p>※各ブース説明と撮影3分程度</p>	<p>MC「最後に防災用品の展示コーナーですが、ここからは各展示ブースの方々に個別にお話を伺っていきたいと思います。」</p> <p>MC①「まずは動物管理センターさんです。」 MCインタビュー① 「ここはどんな展示コーナーですか？」 ※ブース担当者からの回答 MCインタビュー② 「防災の心がけとしてどんなことをしたらいいですか？」 ※ブース担当者からの回答</p> <p>MC②「次は北海道コカ・コーラボトリングさんです。」 MCインタビュー① 「ここはどんな展示コーナーですか？」 ※ブース担当者からの回答 MCインタビュー② 「防災の心がけとしてどんなことをしたらいいですか？」 ※ブース担当者からの回答</p> <p>以下MCインタビュー ③札幌市防災協会 ④JAF 外に出て・・・ ⑤非常用電源給電訓練のネットトヨタ札幌 ⑥車中泊体験コーナーのDoRATさん</p>	

Time	Camera Image SE・Scene	Comment	Remarks
15:53	<p data-bbox="297 203 319 232">✕</p> <p data-bbox="225 835 386 864">屋内訓練終了</p> <p data-bbox="189 984 429 1087">以降カメラを固定 屋内訓練会場全体映 像市長講評まで待機</p>	<p data-bbox="449 203 1229 306">MC「以上、屋内訓練とその展示ブースの様子でした。防災訓練といっても非常に多種多様な体験ができる訓練となっているのが印象的です。」</p> <p data-bbox="449 352 1229 605">解説者「例年、総合防災訓練では防災関係の団体や企業の皆様のご協力により防災機器の展示などをしていますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、参加人数の制限など規模を縮小しながらも、参加住民により身近なものや体験できるもの内容にしました。訓練に参加していただいた方々、訓練をご覧いただいた方々が、自ら考え自主的に行動するきっかけになればと思っています。よろしくお願いいたします。」</p> <p data-bbox="449 650 779 679">MC「現場からは以上です！」</p> <p data-bbox="449 835 1215 938">MC「以上で、予定していたすべての訓練は終了しました。こののち、準備が整い次第、市長から講評をいただきますので、お待ちください。」</p> <p data-bbox="596 1133 1090 1162">訓練参加者を区職員が誘導し整列させます</p>	

